

風化する日常のなかの将来の健康不安
2018年調査の自由回答欄にみる
福島県中通りの親子の生活と健康

成 元 哲
牛 島 佳 代
松 谷 満

『中京大学現代社会学部紀要』 第12巻 第1号 抜 刷

2018年9月 PP. 71~162

風化する日常のなかの将来の健康不安 2018 年調査の自由回答欄にみる 福島県中通りの親子の生活と健康¹

成		元	哲
牛	島	佳	代
松	谷		満

1 そうか、忘れているけど忘れられない

7年…。すっかり震災のことは日頃忘れてしまっています。除染している作業も山積みになった除染土も他県からみれば異様な風景なのにもう普通となっています。除染作業している所を普通に子供を乗せた車で通すぎる…人は忘れてしまうものなんだと実感してしまいます。それでも、やっぱり子供の身体のことには心配だし、地震の小さな揺れにもいまだに動揺します。そうか…。忘れているけど忘れられないのです。

7年になり、あの当時お腹の中にいた長女も春には小学校1年生になります。本当に1年1年があっという間で、あの当時の事を思い出すことはほとんどなくなってきているように感じます。当時2歳だった長男も、あの時のことは全く覚えておらずですが、放射能、放射線という言葉があるのは分かっているようです。あの当時、あんなに自宅にこもって外出しないようにしていたのがウソのように、今では何も考えず、気にせず外出しています。子供も外で遊ばせることには全く抵抗がありません。でも、心

のどこかでは、子供たちが成長した時にいつか、なんらかの影響が出るのではないかと不安に感じている状況です。何かあった時に、国や県、市町村などがきちんとサポートしてくれるのか？というのも疑問に思ったりもしています。本当に不安なことが消えて安心して暮らしていけるのは何年後になるのか。子供たちが健康に成長してくれることを祈るばかりです。

20 世紀の科学技術の粋を集めた原子力発電所で起きた「新しい種類の災難」。これに遭遇した普通の人びとの言葉。ある日突然、それまでの日常から引き離され、不条理を感じながら、非日常を日常として受け入れざるを得なくなった名も無き人びとの声。この7年間、被災地の福島親子の日常がどのように変化してきたか、2018 年1月に実施した調査の自由記述欄に書き込まれた8万字余りのあふれる言葉から明らかにする。

上記は、福島の母親が書き込んだ文書である。あれほどのインパクトをもたらした震災と原発事故であったにもかかわらず、時の流れは人びとの記憶を薄れさせている。ただ、母たちは子どもの将来の健康について不安をもち続けている。

われわれ「福島子ども健康プロジェクト」は、福島県中通り9市町村に住所のある2008年度出生児²及びその母親を対象に、2013年1月、2014年1月、2015年1月、2016年1月、2017年1月、2018年1月に、それぞれ「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査」（以下「本調査」）を実施している。これらの調査は、同一世帯における同一の子ども及びその母親を追跡調査し、「福島原発事故」後、福島で子育て中の母親が感じていることを生活記録として残す作業を行っている。避難区域外の福島県中通り9市町村において、親子の生活と健康がどのように変化していくのかを、調査対象者の子どもたちが成人するまで定期的に調査を続け、次の世代に伝えていきたいと考えている。

2018年1月の第6回調査においては、「東日本大震災・福島原発事故か

ら、まもなく 7 年になります。今の心境を率直にお書きください」という自由回答欄のリード文に、回答総数 819 名のうち、445 名が自由記述を記入している（2018 年 3 月 31 日時点）³。本稿は、2013 年調査⁴、2014 年調査⁵、2015 年調査⁶、2016 年調査⁷、2017 年調査⁸の自由回答と比べて、2018 年の自由回答欄に書き込まれた母親の声にどのような変化が生じているのかに焦点を当てる。これにより、震災・原発事故が風化する日常における、子どもの将来の健康不安を記録することにした。

2018 年調査の自由回答欄にもこれまで同様、多種多様な意見が寄せられているが、声の分類は 2013 年・2014 年・2015 年・2016 年・2017 年調査とほぼ共通の枠組みを利用している。本稿では、母親の意見を①生活拠点、②食生活、③家計、④子育て、⑤人間関係、⑥情報、⑦賠償・補償、⑧対応全般、⑨健康、⑩事故後の思いの 10 のカテゴリーに分類した。これらの 10 の分類項目ごとの意見及びその特徴を記述し、最後に、全体の傾向や変化を踏まえた考察を行う。

調査対象地域は強制避難区域に隣接した地域であるが、地域によって放射線量のばらつきが大きく、また放射能の健康影響についての考え方と放射能リスクへの対処の仕方が多様である。したがって、放射能への不安とリスク対処行動をめぐって、葛藤や分断が生じやすい場所である。原発事故から 7 年近く経過した 2018 年 1 月の時点で、子どもの将来の健康に対する不安が持続する一方、新しい一歩を踏み出そうと前向きな態度も目立つ。母親たちの多様な声を分類していくと、結果的に、福島原発事故後、風化の波が日常のいたるところに襲い掛かる時期に、何かのきっかけで顔を覗かせる「不安」な感情を記録することになった。

本稿で取り上げる自由回答は、2018 年の上半期の時点での意見であり、その後、こうした意見や状況が変化している可能性がある。なお、本稿での自由回答の掲載方針について示しておきたい。第 1 に、上記の分類項目に該当する意見を網羅的に掲載するようにした。ただし、個人が特定できる情報は掲載を見送った。具体的には市町村名、大字名の単位では個人が

特定しにくいので掲載するが、それより小さい単位は掲載を見送った。その場合は、同じ趣旨の意見で個人が特定しにくい意見を掲載した。第2に、自由回答欄に書き込まれた意見は手書きであり、誤字・脱字も多いが、最低限の修正にとどめた。

これまでの調査の自由回答欄の記入数は下記の通りである（2018年3月の時点での集計）。

	回答総数 (2018/3/31時点)	自由記述 記入数	記入率	文字数	一人当たり 文字数
第1回調査	2,628	1,203	45.8%	252,047	209.5
第2回調査	1,606	718	44.7%	153,938	214.4
第3回調査	1,209	746	61.7%	151,677	203.3
第4回調査	1,021	612	59.9%	117,171	191.5
第5回調査	912	549	60.2%	100,690	183.4
第6回調査	819	445	54.3%	81,588	183.3

2 生活拠点

（1）避難関係

生活拠点のうち、避難に関する意見は、ア「避難継続中」、イ「避難したが戻ってきた」、ウ「避難したいができない」、エ「避難しない」の4つに分けられる。

ア 避難継続中

避難を継続している家庭の中には、安心して過ごせているので避難して良かったという声が聞かれる一方、避難生活の継続に対する不安の声、移住への迷いの声も聞かれた。

避難してよかった

- ・自主避難して5年。主人も職場に慣れ、息子も毎日元気に学校に通っています。家族3人健康です。甲状腺検査も判定に変化なく、安心しています。このまま新潟で子育てを続けたいと思っています。7年前の大変だった日々について、誰かと話をすることも全くとっていいほどなくなりました。福島にはもう戻りたくありません。でも、主人は、親もいますし、いつかは帰りたいと思っているようです。
- ・原発事故が起こり、まもなく7年も経つのか…というのが感想です。小さい子がいたので、事故当初は心配になり、神経過敏になっていました。いろいろな情報が飛び交い、どの情報が正確であるのか、分からずいました。仙台市に自主避難した今、放射線の事は気にせず、生活出来ています。色々な思いがあり、転居したので、もうこんな事故が起こらない事を切に願います。
- ・三春町にも人にもだいたい慣れ、今ではボランティア活動にも参加したりして、子ども達の成長を見守りながら、おだやかな気持ちで日々の生活を送っております。南相馬市時代の人達とはだんだんに疎遠になってはきましたが、今でもおつき合いさせてもらっている人もいて、その方々との交流もこれからも大切にしていきたいと考えております

- ・仕事をしながら下の子を保育所へ預け、毎日精一杯生活しています。本当に大変。大変な時、「福島に居たらどうだろう??」と考え、結局私は実母を亡くしているので、福島にいても、山形に居ても同じ、となることがほとんど。だから、私がふんばってがんばるしかないんだ、と自分に喝！を入れます。がんばれ、私と。やることが沢山あって、めまぐるしい…。原発事故さえなければ、自宅で、(アパートではなく)地元で、何も悩むことなく生活、子育てができていたけど、でも事故があったから山形へ来てすてきな出会いが沢山あり、沢山の優しさにふれ、日々有難く生活しています。地元(ふくしま)へ時々帰って元気をチャージするには最高の場所ですが、ここで地に足をつけて生活しようとは、私は全くと言ってよいほど思えません。どんなに大変で苦勞しようとも、心ないことを言われ(たまに…) (山形の方に) 傷つくことはあっても、やっぱり私は山形で生活を続けたい。(生活費は大変ですが…)

移住への迷い

- ・現在、秋田県に避難中ですが、福島に家を残しているため、いずれは福島に戻る予定でいます。今すぐにでも福島に帰りたい夫、放射能の影響が心配なのでまだ帰りたくない私。子どもの進級、進学タイミング、他にも色々と、考えることがあり、どの時期に福島に戻ればいいのか、なかなか答えがでないでいます。放射能の影響はあるのでしょうか、ないのでしょうか。それが一番知りたいです。
- ・子供は今でも福島へ帰っておじいちゃんおばあちゃんと暮らしたいと言います。でも、こっちの学校でも友達もできたし、習い事(ピアノ、ロボット)も楽しく通っているので、簡単に帰れないです。
- ・できれば子供が18才くらいまで避難したいと思いますが、2年前に大きな手術をした父が郡山にいて、夫と毎週のように交代で様子を見えています。片道2時間とそう遠くない距離ではありますが、なにかとせわしく、落ちついて何かに取り組むのが難しいことに最近気づきました。いつかは帰るのだろうとは思っていますが、新潟の方が友人も多く、

特に子供はなかよしの子と離れさせるのも可哀想に思っています。食べ物等にもピリピリしなくなりましたが（単なるおっくうさです）だからこそ、少しでも安全と思うものを地元にて買える新潟にいたいのが本音です。

イ 避難したが戻ってきた

震災から7年が経ち避難先から福島に戻ってきた人もいる。福島に戻ってきた人のなかには、戻った先の人間関係に不安を感じたり、放射線への不安を感じたりする人もいた。

避難した先から福島へ戻り不安

- ・この春には、避難生活を終えます。家族で暮せるのは嬉しいですが、福島でとなると、憂鬱さと子供への健康面での心配が正直あります…。

精神的に安定

- ・県外に転居して5年、上の子の中学入学を期に福島に戻ろうかと思っています。心のどこかに不安はありますが住みなれた地元に戻る安心感があります。不安が大きくなった時は、また転居しようかと思っています。でも、生き残れなかった人の事を考えると、まずは生きている事に感謝して、毎日をしっかり生きていきたいです。
- ・その当時、小さかった子供達もだいぶ大きくなり、今年、高校生、小4、小2になり、月日の早さを感じます。避難先で仲良くなった子育て中のママ友とも、年に1度ぐらいやりとりをしたりしてます。同じ境遇の中で子育てをしたママ友は、今でも貴重な存在です。震災がなかったら出会えなかった人も居るのと、避難したおかげで、子供達と一緒に居る時間が長く持てた事は、今では、大切な思い出です。今思うと、大変な事も沢山あった7年間でしたが、大切な時間を過ごせた7年間でもあります。これからも忘れずに、1日1日を大切に過ごしたいと思います。

ウ 避難したいができない

持ち家、仕事などを理由に、避難したいができないという声も多く聞かれた。このような人の中には、避難せずにこのまま福島で暮らしていくことに不安を感じたり、避難しないことへの後ろめたさを感じたりする人もいた。

避難したいができない(持ち家・仕事)

- ・毎日の生活でいっぱいいっばいで、避難をすることもできないし、本当に平等なのか？家を建てて、1年で震災になり、とてもつらかったのを思い出します。
- ・天災ですが、地震の度に、双葉町の原発は大丈夫か？もっと安全な地を、と思いますが、移住は生活維持が優先で不安もあります。

その他

- ・放射能の影響を考える事が少なくなってきましたが、現在の福島原発の安全性に対する不安はあります。再び地震等の災害があった時、その他他国からの何らかの影響があった時に、県内に住んでいて大丈夫なのだろうか？と思っています。重度の障害がある子どもがいるので移動するという事がとても困難です。なので現在の生活環境を変える事は難しく、ただ原発に関しては情報を頼りに受け身で生活せざる得ない状況だと思います。
- ・年々放射線のことは話題にならなくなり、不安も薄れてきていますが、将来のことを考えると、何か影響が出るのではないかとか、その場合の補償はきちんとされるのだろうかなど、頭によぎります。震災後もずっと福島に残っていますが、後々後悔するようなことになったら…という不安は何年たっても変わりません。
- ・時々ふと、ちがう町に行きたくなりますが、息子が元気に楽しく学校に行ってくれてる事が今の私の支えになっているのでがんばれます。

エ 避難しない

福島で生きていこうと決断し、この地に残って良かったという声が聞かれた。

- ・自主避難したいという思いも強くありましたが、今にして思えば、この地に残って本当によかったと思います。発災から 2 年後に、姪が年子で 2 人の女兒を出産しましたが、全く健康体で健やかに成長しているのを見て、奇形が生まれるとかいうデマに左右されてはいけなと感じました。

特徴

避難に関する意見の総数は、68 件（2017 年）から 26 件（2018 年）に減少した。詳細にはア「避難している」に関する意見は、16 件（2017 年）から 14 件（2018 年）に減少した。イ「避難したが戻ってきた」に関する意見は、8 件（2017 年）から 5 件（2018 年）に減少した。またウ「避難したいができない」に関する意見は、18 件（2017 年）から 6 件（2018 年）に、エ「避難しない」に関する意見は、26 件（2017 年）から 1 件（2018 年）に大幅に減少した。

（2）保養関係

保養に関する意見は、ア「保養プログラムの拡充を望む」、イ「保養に関する情報を得たい」、ウ「保養に満足した」、の 3 つに分けられる。

ア 保養プログラムの拡充を望む

保養の数が減っていて、条件に合うものが見つけられなくなっている。

募集が減ってきている

- ・今年は長男が中学校へ進学するに伴い生活が大きく変わるだろうと思っています。今までは土日を利用して保養へ出かけていましたが、今年は以前のように行けなくなると思います。長男の部活動のことを考えると

仕方がないことであると思いますが、また、今年度で保養の支援を終える団体もあり、なかなか難しいのが現状のようです。ふくしま HOPE は今年度で支援を終えることを連絡いただいております、山形の「森の休日」も夏前までの目途しか立っていないとお話を聞きました。生協さんで行っている「コヨット」も震災生まれの子が10歳になるまでと決めておられるようで、今年度からは小学生への企画にシフトし、回数も減らしていくとのことでした。私たちがお世話になっていた団体も支援継続は難しく、保養はだんだんと必要ではないというような感じになっているようです。子どもが大きくなるにつれ、参加も難しくなり、参加する方も震災後生まれの子ばかりにも感じます。

条件に合うものがない・仕事で行けない・要望

- ・子どもが中学生になると行ける保養がぐんとなくなる。
- ・保養等を、長期休み時を利用して参加させていただくこともありますが…この先、どの程度、続けていってくれるのだろう、費用は続くのか等、不安なこともあります。ほとんどの子が小学生になった、震災経験の子どもたち。保養に関しても、未就学児ではなく、小・中学生をメインとした企画を多くしてほしいと願います。

費用

- ・年々保養に使うお金が大変になってきました。助成が減っているので、その分自己負担が増えました。今3年生…あと3年はがんばりたい。2シーズン先の保養を考える生活がつかれた。今は夏休みの保養受け入れ先を探している。お金は大変だが、子供が大人になった時「やっぱり保養に行かせれば良かった」と思う様な症状になりたくないの、何とかでもやりくりして遠くへ行かせたい。
- ・子ども達と保養に行きたいが、家の状況や時間・お金の関係で行けていない。

イ 保養に関する情報を得たい

- ・少しずつ春休みの保養の募集を見かける時期になってきました。
- ・県や市も、いろいろ企画をたてていたようですが、それを知った一部の人がいやされただけで、まったく何も知らずに苦しい毎日を送っていた家庭がある事も知って下さい。救いの手をさしのべるなら、もっと平等にして下さい。

ウ 保養に満足した

- ・とにかくみんな健康に育ってほしい。時々とても心配になる。仕事も学校もあるので逃げる訳にもいかない、支援もへつてきている中、心のよりどころは保養、団体、他県で私達を知らない人達が色々助けてくれる。休みの保養でどれだけ心をすくわれた事か。感謝しているのは保養だけ。それがなかったら住んでいて苦しいばかりです。保養が心のよりどころとなっていて、おだやかに過ごせている様に思います。とにかくみんなの健康を願うばかりです。保養で遊んでいるばかりに思われがちですが、本当にリフレッシュできて、また福島でがんばろうと思えます。
- ・昨年夏にも、参加してまいりましたが、我が家の子どもたちは日常を忘れ、本当に楽しんでおりました。また行きたい♡と、熱望しております。参加する、楽しいだけではなく、子ども自らが、震災後、何年経っても、福島の子どもたちを見守ってくれる人がいる、応援、支援してくれる人がいる、助けてくれる人がいることを、肌で感じられました。感謝の気持ちを再確認できた、よい機会となりました。
- ・保養先では、色々な経験をさせていただいたり、他の子と交流したりして、とてもありがたいですし、保養を通してこどもが成長しているのでも確かです。答えは出ないと思いますが、時々考えてしまいます。でも私は今後もこどもを保養に出すつもりです。その気持ちは変わりません。
- ・子どもに対する行事の助成事業が継続されていたりするので、普段仕事等で外出できなくても、いろいろな体験ができているようなので助かつ

ています。

エ 保養に関する悩み

- ・保養…。家族の生活の一部となりましたが、保養にどれくらい出るか出ないか、どこに行くのか、自分の家族（母子）だけか、こどものお友達家族を誘うか、(3年生の息子はお友達と一緒にいいと言います。私も（保養つながり）知っているママさんがいると心強いです。（気が楽ですね）初めての場所に自分たちだけで参加するとどっと疲れます。）パパにどのように話すか…お金はどれくらいかかるか（長期保養に出たいので、パートも限られます）保養について悩む時間が増えました。長期休業のたびに母子で保養に出ていて、パパとの時間、祖父母、学校のおともだちとの時間を奪っているのではないか。小学生のこどもにとって、夏休みにお友達と一日中遊んだり、学校のプールに入ったり、家族でのんびり過ごしたり…そういう時間が何より楽しいのではないかと…と思ったりします。
- ・私が、昨年の9月に気管支ぜんそくになりました。震災後、保養にでるたびに、保養先で、よくせきがとまらない症状が続いたことを思い出しました。保養先でのハウスダストやストレスが原因だったのかとったりしてます。（アレルギー持ちです。）原発事故がなければ、保養にでることもなかったな—と思いながらも、保養によっては新しい経験を子ども達はたくさん体験することができました。3人の子供がいますが、4月から、2番目の息子が中学生に進学することで、保養に行く機会が減っていくと思います。

特徴

保養に関する意見の総数は、両年とも13件である。ア「保養プログラムの拡充を望む」に関する意見は、8件（2017年）から7件（2018年）に減少し、イ「保養に関する情報を得たい」に関する意見は、両年とも1

件である。またウ「保養に満足した」に関する意見は 4 件（2017 年）から 5 件（2018 年）に増加した。

（3）除染関係

除染に関する意見は、ア「除染にある程度満足している」、イ「除染に不満がある、除染の効果に疑問がある」、ウ「除染を望む」、の 3 つに分けられる。

ア 除染にある程度満足している

除染土の運び出しで安心したという声を多く聞かれた。

除染土の運び出しで安心

- ・除染もされて線量も確かに下がりました。目に見える数値があることも安心感を与えてくれます。先日汚染土がアパートの敷地から運び出されました。とてもホッとしました。作業員さんにお会いすることが出来たので感謝を伝えられました。大変な除染作業をしていただけたことは、ここで生活していくと決めた私達にとって、本当にありがたいことでした。
- ・やっと今年度中に、自宅庭に保管してある汚染土を掘り起こし、中間貯蔵施設に移してもらえる事になりました。生活が今までと変わる事はないと思いますが、何となくスッキリと言いますか、一区切りつく様な気がします。
- ・庭にうめられている汚染土がもう少したてば仮々置場に運ばれる予定です。
- ・最近、家の周りの道路や側溝の除染が終わり、一応、汚れた土壤が全て取り除かれました。何となくスッキリした気がします。
- ・自宅庭に埋めている汚染度を掘り起こして搬出するという知らせが届きました。また、娘が通う小学校の汚染土も搬出し始めました。汚染土を運ぶトラックの交通量が増え、放射線量の面でも交通事故防止の面でも

注意が必要な状況です。しかし、汚染土が地域からなくなることは喜ばしいことであり、搬出終了後はこの問題が一段落することになると思います。でも、汚染土搬出後もおそらく、他地域からすれば高線量の土地であり続けるでしょうから、この問題に対する捉え方を再考する時期でもあると思います。

- ・昨年、庭に埋めてあった除染物を回収していただき私達の住む地域は除染が終了しました。

その他

- ・時間が経つにつれて除染状況が良くなり、安心して暮らせると感じるものが増えました。
- ・やっと我家の側溝の掃除が終わりました。(東電より) 今でも町内会中の掃除を目にしますので、まだまだ原発事故は終わっていないのだなあと感じます。

イ 除染に不満がある、除染の効果に疑問がある

除染は実施されたものの、汚染土が庭先に埋められるなど除染の処理方法や作業のずさんさに不安や不満を感じる声が出ている。また、汚染土が運び出された跡がまるわかりな広場に近寄る気にならないというような声もあった。

さらに今さら除染する意味があるのかというような声は未だ多く寄せられている。

汚染土等の処理の不満

- ・庭にいつまでも埋もっている除染時の大量の土を見るたびに、何も身近では変化していないと思っています。(中略) 1日でも早く、身近な除染土をしかるべき所へ持って行き、子ども達が安全・安心した環境に少しでも近づける様にしてほしいと願っています。
- ・いまだに自宅に除染で出た物が置いてある。早く片付けてほしい。除染した物を置いておくなら、除染した意味があるのかわからない。除染し

たものの、外に洗濯物は干したりしているが…。除染されていない場所（屋根、外壁など）は放射能はどうなっているのか？ベランダの除染もあいまいだった。除染については、どこことなく信用性に不安を感じた。

- ・家や周辺道路の除染は進んでおり、少しずつ安心を取り戻しつつあります。しかし、その除染物の行き場がなく、河原や農地に山積みされており、まだまだか…とため息がもれることがあります。
- ・除染した後の袋に入った草や枯れ木などもまだはこばれず、家のすぐ近くに置きっぱなしですし、もう、忘れてるんじゃないのかな？と思うコトもいっぱいあります。もうすこし、ちゃんとするべき事をしてほしいです。
- ・家の庭にまだある除去土壌の搬出を早くしてほしいです。

除染のやりかたに不満

- ・除染もやってはいるけど、あのやりかたでは、全然とれてはいないでしょう。
- ・賃貸住宅の敷地内に（自転車置き場や建物のわき）置かれていた、放射能の除去土のコンクリート（たる状）とその上にのせられやぶれかけていた黒い土袋が、やーっと夏頃（2017 年）に、撤去されました。たった 1 日であつという間になりました。作業としてはたったのこれだけのことに、長年、身近に不安材料をみてみぬふりして、かかえていた、心の負担は、かえがたいものであり、もっと早くとりさつてほしかったと思います。（中略）さら地に（土をしきなおした）したところで、遊具もベンチもなくなった広場。又、汚染土が運び出されたあとが丸わかりな芝の地面。近寄る気になりません。人工的な遊び場より、元の自然豊かな福島、そのままの自然にふれたい気持ちです。

今さら除染することへの疑問

- ・今もなお、この福島市でさえも除染中の場所がある。今！？っていう感じもある。今やって、意味があるのか…。
- ・今になって道路の除染作業をしているのを目にしますが、7 年も過ぎて

からの作業に果たして効果があるのか…税金のムダのように思えます。

- ・未だに除染が続いている場所が多く、今頃意味があるのか分かりません。除染され袋詰めされた大きな物は、空き地にたくさん置かれています。子供達は、もう気にする事なく外で元気に遊ぶようになりました。今後、体に変化がない事を願うばかりです。
- ・まだ周辺で除染関係の作業をしているのを見るが、今現在、その場所の線量がどれ程あるのか、そして作業後の線量がどれだけ下がったのか、もしかすると回覧板などに書いてあるのかもしれないが、あまり見ないので…改善されている感がない。もともと目に見えないものなので、日々の生活の中気にしながら生活していないので、今ごろの除染作業の意味はあるの？と思うことがあります。(場所によるとは思いますが…)最近、近所の側溝の残土？を回収？する作業があったが、毎日通っていた場所なのに今ごろ？と思いました。その作業は必要なのかなあ？と考えてしまい、必要ならなぜ7年も待たなければならないの？とも思いました。もちろん順に対応して行くと時間がかかるのはわかるのですが、こんなに時間が経ってやらなくてもいいんじゃないと思う時がありました。

除染作業員への不安

- ・いろんな事が、あいまいになり、放射能があるのに全くないような生活をするのは違和感があります。除染作業者がいなくなったと思ったら、急に現れ、垣根の除染をして道路をあちこち閉鎖してしまったりすると、やはり元にもどるのはまだまだ先なんだと感じますし、少しずつでも生活をじゃまされるのは、本当に被害を受けつづけていると感じます。いい加減な業者たちにもやらせている国にもやり場ない怒りを感じます。

除染後も不安が残る

- ・作業員の方たちが、我が家に来て、除染した家の敷地の土を今、掘りおこして別の場所へ移動しています。毎日、近所のあちこちの家で、作業員たちが働いていますが、今さら、そんなことをして何になるのかな？

と、あきらめの心境です。土を移動しているだけで線量は減る訳じゃないし…。

- ・ 今日も側溝の除染をしていましたが、そんな所にかかるお金を、私達にくださいと思ってしまいます。いくら除染をしても、都会に避難した方、親と同居から嫁だけ子供をつれて避難した方は、戻ってきません。
- ・ 外での活動はほぼ震災前に戻っていますが、除染もほとんど終わっているけど、数値は下がっても一時的で、またしばらくすると上がっている所もあるようなのでいろいろな面で心配は尽きません。
- ・ いくら除染したと言っても、山のすみからすみまでやった訳ではないので、山から流れてきた雨水などが家や田んぼ（散歩道）まで流れてきたらと思うと、あまり散歩させたくないのですが、実家の両親や旦那が、あまり気にしていない（除染したから大丈夫だと言っている）ので、私だけ心の中で嫌な思いをしています。震災前にはない悩みが今はあるので、気にしすぎかもしれませんが、疲れます。

その他

- ・ 除染作業で校庭が使えなかったり、公園が使えなかったりする。子供の体力向上や、自然とのふれ合いの機会が減るのが心配。
- ・ 私の地区ではまだ地物（みょうが等）が食べられないですよ。国の基準の 0.23 以下までの除染も私の町はしてもらえないですよ。

ウ 除染を望む

除染が進んでいる地域がある一方、除染が進んでいない地域が見られる。また、何度も除染してほしいという意見があった。

- ・ 家の前にある池の除染をやってほしいです。ずっと手つかずの状態なので、きれいにしてほしいです。
- ・ 山林など除染されないまま荒れはてて、悲しいです。原発事故は、まだ、まだ、続いています。終わっていない。不安は続いています。
- ・ 私の実家は放射線量が高く、戻れません。お隣が空き家で持主との連絡

がとれないから、除染できないそうです。その様な所がたくさんあると思いますが、私は何も知りません。どこが安全でどこがキケンなのか知りません。そのような情報はみんなで共有すべきで、気付いた人だけが情報を探す世の中では良くないと感じました。

- ・何も変わりませんが、側溝などの除染はなく、通ると不安はあります。

特徴

除染に関する意見の総数は兩年ともに 45 件である。ア「除染にある程度満足している」に関する意見は、9 件（2017 年）から 13 件（2018 年）に増加し、イ「除染に不満がある、除染の効果に疑問がある」に関する意見は、33 件（2017 年）から 24 件（2018 年）に減少した。また、ウ「除染を望む」に関する意見は、3 件（2017 年）から 7 件（2018 年）に増加した。

3 食生活

食に関する意見は、「地元産の食材や水道水はできるだけ使わない」、「地元産の食材や水道水を使わざるを得ない、使っている」、「学校（保育園）給食に対する不満」の 3 つに分けられる。

（1） 地元産の食材や水道水はできるだけ使わない

食に関しては、2017 年の調査より意見が減ったが、地元食材に抵抗を感じるという声は変わらずにある。大人が食べるものは気にしないが、子どもが食べるものは気にしているという意見もあった。

地元食材は使わない

- ・今も野菜は北海道や西日本から取り寄せ、水はペットボトルの水しか使いません。子供の将来を考えると、地産地消なんてとんでもない事です。10 年たってもこの生活は続けられると思います。まだまだなんです。国や県は終った事にしたいんでしょうね。

地元食材に抵抗を感じる

- ・ どんどん原発事故のことは忘れられているような気がする。福島の野菜を子供に食べさせるのは考えてしまう。自分が食べるには良くて子供には…。どんなに検査をしても不安は残ります。
- ・ 海の魚など心配で食べるのが少し心配です。（原発近くいわきの海で水揚げされた魚）海も汚染されていると思うので、福島の相馬、いわきの海は泳ぎに行けません。
- ・ 日常の中で、放射能の話題は、ほとんど出なくなった。テレビのニュースで毎日、空間線量は発表されるが、それも 1 日の中で放映する時間は減少していると感じています。最近では私自身も情報を以前までのように、積極的に集めていないと感じています。公共施設の敷地内にある線量の値も、年々減少値を表しています。ただ、自宅での食事だけは、県内のきのこ類は食べないとか、今は県内産の根菜は避けるようにしています。
- ・ 除染が済んだと言うことで畑で野菜を作り始めた。曾祖父はきちんと検査をして、大丈夫だったよと結果を見せてくれた。しかしきのこや山菜を採ってきてしまうので、義父母は困っている様子。我が子と従兄弟二人の為にもひかえてもらえないかな、と思うが長年村で過ごして来て、日常をうばわれた曾祖父母の気持ちを思うと言葉が出ない。
- ・ 我町、中通りは浜通りから見ると良い方だと思うのですが、やはり地物野菜を買う時は一瞬迷います。

福島産を避けることがある

- ・ 7 年近くもたつと原発事故がなかったかのように、現在では普通の生活に戻っていると感じます。しかし事故から 7 年たった今でも、福島県沖や近海でとれた海産物、県内で生産された野菜、肉、米は摂取したいとは思わず、できるだけ他県のものを選ぶようにしているのはわかりありません。いろいろと書きたいこともありますが、今では、何とも言い、あきらめ（?!）今を一生懸命生きるだけです。

- ・本当に福島に住んでいながら原発事故の事を考える事もすっかりなくなっています。春になると、山菜のコシアブラはまだ放射線量が高いらしいとかききます。きのこも地採りの物は食べません。
- ・福島に住んでいながら（地元のものを買ってあげたい思いはありますが）未だに福島産の海の物は買いたいと思えません。きのこ、たけのこなどもです。（子供のみ）大人が食べる物は特に気にしていません。

(2) 地元産の食材や水道水を使わざるを得ない、使っている

県内産を使うようになったという声は2016年と同数であった。検査していることへの安心が増し、県内産への愛着を示す声もある。また地元産を食べているが不安や心配な気持ちを抱いている人もいる。

検査しているので安心している

- ・スーパーで手に入る食材は検査しており、安心だと、買ってみんなで食べていますが、以前のように測定するの必要がなくなるよう、安心して食べ物が手に入る環境に戻ってくれたらと願っています。

県内産は美味しい

- ・あつという間に7年になった気がします。食材も福島産が多くなってきて、うれしいです。
- ・子供たちが元気なので、放射能のこともほとんど気にしていません。野菜類も地元のおいしい物を食べさせたいと思い、積極的に利用しています。

抵抗を感じなくなった

- ・あまり原発事故の件を話をする事も少なくなりました。当初はなるべく買わなかった地元産の食べ物も買うようになりました。
- ・最近地震の話をする事も少なくなり、毎日、元気に過ごしています。米（実家で作っている）、野菜も自分達で家庭菜園をし、食べています。子供達も元気で特に病気にもならず、安心した毎日です。
- ・以前に比べると、放射線量などについて気にしなくなったように思いま

す。食べ物・水についても同じです。

- ・東日本大震災からまもなく7年。最初の頃は、どうなるんだろうと心配していましたが、子供達が現在普通に外で遊んで、家の庭で作った野菜などを食べたりしているとそんなに心配しなくても大丈夫なんだと思わせられます。
- ・避難先の山形から、福島に戻ってきて、5年が経ちます。当初は、山形産の野菜を求めて、わざわざ山形へ行ったり、福島のスーパーでは、なるべく地元産を避けるようにしていました。山形に戻りたいと、毎日思っていました。現在は、家族が一人増え、昨年5月からは仕事を始め、忙しすぎる毎日を送っています。野菜は、スーパーでは地元産がほとんどなので、買うこともありますし、職場の方が育てた野菜をいただくこともあります。

地元産を食べているが不安もある

- ・基本的には県産のものは食べているが、山菜やきのこ類は、ちょっと考えます。
- ・外遊びなども数年前から特別気にせず生活しています。福島の子どもの体力低下などのニュースも目にしたこともあり この地域に生活している以上、仕方ない事もあるけれど なるべく外あそびなども事故前のように戻していってあげようと思う。食べ物も、時々、気にする品目はあるけれど基本は福島のを食べている。
- ・地元産の野菜も買う機会が増えてきましたが（安価なので）、でもこれを使っていいのか…とためらいはまだまだあります。
- ・日常生活において時間の経過と共に過去の出来事になっている。しかし、常に心の片隅にあり、ふと現実にかえる。食材など地元産を使用しているがやはり、こだわっている人と話すと不安になる。

買出しが大変なので仕方がない

- ・去年までは、頑張っていた、ミネラルウォーター生活も、経済面、労力面から、一度さぼったら、そのままずるずると水道水使用の生活に。楽

な方に流されていっているのを感じます。

- ・ 県外の野菜も肉も手に入りにくくなり、仕方なく県内や地元産のものを購入しています。そう考えると、まだまだ、心の中では影響は残ってますね。

(3) 給食

福島県産の食材を給食に導入することに不安を訴える声も少なからずあった。

- ・ もう、日常生活の中ではほとんど思い出すことはありません。気にしているのは山林の線量ぐらいですが、子供が小学校の授業で何度も山に入るので、少しいやです。でも、言い出せません。きのご類を買うとき、地場野菜を買うときも躊躇します。学校給食では地元の食材を使うので、本当はいやです。
- ・ 家庭ではなるべく福島の食材は使用していませんが、学校給食では地元産の米ですし、検査をしているとはいえ、食材についても心配です。
- ・ 地産地消がどんどん進められ、レストランやカフェなども地元の物を使ってる店がとて多くなりました。私の働いている会社も地産地消を押してます。学校の給食は、全て福島県産なので、最近子供も疑問に思うようになったのか、「給食福島なのに食べていいの？」など聞いてきました。我が家では県外産の物を使っているのを一緒に買い物に行って知ってるので、子供にどう言っているのかすごく悩みました。ここはもう安全だと言えないのに、何事もなかったかのように、日々過ぎていくのが怖いです。

特徴

食生活に関する意見の総数は、39 件から 36 件に減少している。「地元産の食材や水道水はできるだけ使わない」に関する意見は、18 件 (2017 年) から 15 件 (2018 年) に減少。「地元産の食材や水道水を使わざるを得ない、

使っている」に関する意見は兩年ともに 18 件であり、また「給食」に関する意見も兩年ともに 3 件である。

4 家計負担増加

家計負担増加に関しては、「他県産の食材・水の購入費用」、「外遊びの代わり」、「その他」の 3 つに分けられる。

（1） 他県産の食材・水の購入費用

他県産の食材や水の購入費用に関して、次のような意見があった。

- ・やはり今でも水道水はのめないし、料理にも使っていないため水代がともかかる（ペットボトルの水代など…）
- ・マスクと、水は、配給があっても良いと思う。水だけでも、家計は苦しくなる。食べ物までは、家計がまわらない。給食で地産地消をするのは良いと思うけど、家庭では気をつけて、産地を見て買ったりしたい。子供達が成長するにつれ、食べものからの影響が心配になる。でも、目の前の生活も大切なので、…。家計を考えると、思うようにはいかない。
- ・みんな被災者なのに、賠償金ももらえず、毎週水を買ったり、少しでも安全な食品を買おうと色々な所で節約してるのに。

（2） 外遊びの代わり

保養が減ってきているため自分たちで県外へ出掛けることで、交通費等の出費が増加したという意見や、外遊びを制限することで運動不足にならないように習い事をさせるための費用が増加したという意見がある。

- ・7 年たつとリフレッシュ保養など少なくなってきて、自分たちで外に出るしかなく、メインの人たちは高速など無料だけど、郡山は今なにも補助されていないので年々出費がふえています。やりくりがとても大変ですが、少しでも体に放射線が蓄積されないよう親としてがんばりたいです。

- ・避難したくても出来ず、子供を外で遊ばせることも出来ず、習い事（運動）をさせたり、休みにちょこちょこ遠出（県外）したりして、家計が苦しくなってもがまんしている家庭があることも忘れないで下さい。

(3) その他

その他、事故後に増加した費用として、避難・二重生活にお金がかかることや、公共料金の値上げによる負担などの意見があった。

避難・二重生活の費用

- ・来年度（4月～）家賃補助が月1/3になります。家賃補助は残り1年…。福島 の自宅のローンと、アパート家賃全額はキツイ！

租税・公共料金

- ・電気代も高いまだ。

特徴

家計負担増加に関する意見の総数は18件（2017年）から8件（2018年）に減少している。「他県産の食材・水の購入費用」に関する意見は、同年ともに4件である。「外遊びの代わり」に関する意見は3件（2017年）から2件（2018年）に減少、「その他」に関する意見は11件（2017年）から2件（2018年）に大幅に減少した。

5 子育て

(1) 放射能対応（行動）

放射能に対処する為に外遊びの制限をしているという意見があった。また、外遊びをさせながらも不安な気持ちを抱えているという意見もみられた。また、外遊びをさせなかった影響があるという意見が増えている。

外遊びを制限している

- ・最近では除染も終わってしまい、草などが伸び放題の所などがいっぱい、子供達を外で遊ばせてもいいか未だに不安です。周りの家の人も引っ

越しなどで人が減っているのも事実です。そんな中で子供達は育って
いって大丈夫なのかな？っと気になっています。

- ・実母（おばあちゃん）は家に居る子供がうるさいとさわぎたて、家出を
して3年なります。外あそびをしないから。外で友達と遊びたくても、
子供がそんなにいません。避難したまま戻ってきません。
- ・今年度、二男が通う幼稚園で、畑の放射線量が高かったため、さつまい
もの栽培や収穫ができませんでした。前年度は問題なくできました。震
災から、まもなく7年になり、除染も活発におこなわれているので、安
心していましたが、まだまだ油断できないのだと思いました。

外遊びさせているが不安

- ・外に出さないというよりは友達作りとか遊び方を話しあったりと、これ
からの身体の影響があるかもしれないと思いつつも前向きに成長の方を
優先したいと考えています。
- ・下の2歳の子は、砂遊びや外遊びが大好きなので、気になりますが、よ
く手を洗うようにすれば大丈夫だと思い、遊ばせています。不安は消え
ることはありませんが、日常生活は支障なく過ごしている状況です。正
直なところ、今は、仕事と育児の両立で精一杯で、放射能を心配してい
る余裕がないです。健康被害がない限りは、このままの生活を、継続し
ていくのだと思います。この先もずっと、家族全員が、健康で、元気に
過ごしていけるよう、願うばかりです。

外遊びをさせなかった影響

- ・現在、保育士として仕事をしていますが、子供たちの姿が、原発事故の
影響があると感じることが多々ある。・運動能力の低下・食べ物への興
味など 自分の子で例えると、水道水を飲ませていなかった。3年目あ
たりから少しずつのませていた。外出先での水や外での水はのめない。
今は少しずつのめるようになった。少しずつは大丈夫になってきたが、
何でも大人にきくくせがあった。「ダメ、ダメ」が多かったり、させなか
ったことが多かった「外はダメ、土はダメ」など幼少期の自然体験はすご

く影響があると今になりすごく痛感している。

- ・子供の成長に伴い、この子の世代の子供の成長の遅れを感じます。姉2人の同時期と比べるととても幼く、できることも少ないように感じます。(発表会や作品などから)震災後、のびのび遊ばせてやれなかった影響なのかな、なんて思ったりします。(当時2才でした)大人になるまでにできるようになることを願います。小さい時の過ごし方の重要さに改めて気づきました。今後、なるべく色々な体験をさせてあげたいです。元々、不安がつよいタイプですが震災の影響もあるのかな?とも思っています。
- ・〇〇の育児について悩んでいます。震災後、上の子たちに経験させてきた事が全く出来ず、ただひたすら保養を探して福島から連れ出していました。そのことで、上の子たちとの思考や行動とはかけはなれた現在の状況に悩んでいます。普通に、出来るだけ「ダメ」と言わない生活を送ってあげられなかったこと(土、水、草、木、石など、小さい子が大好きなものを自由にさわらせること)に引け目を感じ、キチンと善悪を教えてあげられなかったのかもしれない…と考えてしまいます。震災後は、子供と過ごす時間を、それまでに必要のなかった雑事(保養先をさがしたり、手続きしたり、自分で放射線について学んだり)にうばわれ、とくに〇〇に手をかけてあげられなかったのでは?とつい考えてしまいます。
- ・一番外遊びをさせたい時期に外遊びが出来ずにきてしまったのが。今もずっと心にひっかかっていますが前向きに、いつも笑顔でいられる様に頑張りたいです。

その他

- ・震災の時2才だった〇〇が小3になり、一番無邪気に外遊びする時期のがした部分はあるなあと感じます。親の私もどうしても、億劫に感じてしまいます。でも、〇〇(次男)も4才になり、外遊びをしたがるので、車でいける公園に行って遊ぶ機会は増えました。

- ・ 2020 年にオリンピックがひらかれます。福島で野球とソフトが出来るようになりました。娘（の姉）は震災の時幼稚園で、今中学校でソフト部です、外に出るなどとは言わないし、たくさん体を動かしなさいと言います。グラウンドで動きまわるのは、とても楽しいそうです。何もなかった事にはできないけど、くり返し同じ思いをするのは、もういやです。事故後、自分が小学校の 4 年間育った相馬市には一度も行ってません。社会科見学で原子力発電所に行った事も、今では夢のようです。「絶対安全なんです」と係のお兄さんは話してくれました。あの時、一緒に話を聞いた同級生も、無事でいるのかもわかりません。
- ・ ここに住んでいてもガンにならないような食生活や使う物（洗剤やシャンプー、化学物質・環境ホルモンのことなど）に気を付けながらいこうと考えています。それだけです。
- ・ 普段生活している分には、原発事故のことはあまり意識しなくなった。子供たちも意識しているようには見えないが、放射線量が高かったところには近づかないようになった（河原、山、側溝など）放射能を意識しなくなったというよりは、日常になったといった方がいいかもしれない。

特徴

子どもの外遊びに関する意見は減少傾向だったにも関わらず、8 件（2017 年）から 19 件（2018 年）と増えている。これは、外遊びをさせなかった影響についての意見が増加したためだと考えられる。放射能の影響が気かりで不安だという声は依然としてあり、複雑な心境が伺える。

（2）放射能対応（検査）

放射能に対処する為の検査に関する意見は、ア「子どもの検査」、イ「積算計（ガラスバッジ）」、の 2 つに分けられる。

ア 子どもの検査

子どもの検査については、検査を受けることが負担になっているという意見があるが、検査の継続を望む声も多くあった。また甲状腺検査の結果から不安を感じる一方、ニュース等の情報から子どもの健康を不安に思う声もみられた。

子どもに申し訳ない

- ・このまま一生検査を受けさせなければいけない事を、子供に本当に申し訳なく思います。

検査の継続

- ・これからは、検査の機会はのがさず受けて、子どもたちの健康を見守っていきたいと思う。
- ・子供の健康調査はこの先ずっと続けてほしいと思います。甲状腺検査の A2 判定もこれから先悪くならないかが心配です。
- ・放射線量の測定は半永久的に行うのかどうか考えると、苦しい状況に感じるように感じる。
- ・健康調査は、任意なので、なかなか参加していない。もっと強制的のほうがいいような気がする。
- ・子供達の健康は心配なので、甲状腺検査等はきちんと受診させたい。

甲状腺検査結果から

- ・兄弟が甲状腺の検査で A2 の判定ができたのでこれから先病気ができたり、検査の結果がわるくなっていくことが心配。
- ・子供の甲状腺検査の結果が悪く変わっていて、将来がとても不安です。本当に県産の物を食べても良いのでしょうか？
- ・子どもが甲状腺検査でのう胞の判定が出た時は、今後の健康影響についてすごく不安になりました。何かあった時のもっと明確な補償制度を示してほしいと思います。
- ・甲状腺検査で、今までは何ともなかったのに、のう胞が見つかってしまった。本当のところ、実際はどのくらいの数値で変化しているのか知りた

い。

- ・娘の甲状腺検査でう胞が見つかったので少し不安になってしまった。
- ・現在の郡山市では、放射能の心配をしている人はほとんどいないように見えます。話題にしない程、日常になっています。公園や学校には測定器があり、私の職場（保育所）では、保育室の前に表示されているので、雨上がりは数値が高いなーなんて見てますが。今の所、息子も中1の娘も元気です。中1の娘は甲状腺検査でA2でしたが、う胞はある人はあるよ、との説明だったので、様子をみています。風化していくことは、みんな忘れることとは少し違うように思います。放射能を気にして生活することが日常になっているのが、今の私の生活です。
- ・目に見えない放射能。学校では、話をする機会があり、こういうものかと聞いてくるようです。もうすぐ7年ですね。早いものです。いまだに水は買っています。以前に甲状腺の検査でA2判定でたときは、病院の先生や検査の人に聞いたりして、気がきではありませんでした。検査するたびにドキドキで、モニターを見てしまいます。やはり今後、子どもたちの体については不安です。
- ・子どもも、9歳になり、4月からは小学4年生になります。普段の生活をみていると、子どもらしく元気に過ごしていて、特に不安はないのですが、甲状腺の検査が、一番の不安というか悩みです。初めの検査から「A2」の判定です。今後、「B」→「C」と進んでいったら…と思うと心配です。

ニュース・新聞報道から

- ・新聞には、現在の甲状腺検査について「過剰診断」の可能性が指摘されていました。私は今後の子ども達健康面について心配しており、検査やその結果について過剰と捉えたことはありませんし、今後の検査でどのような結果が出て過剰と捉えることはないと思います。検査を選択制にして、必要と考える人には十分な検査を受けられる体制が必要だと思っています。

検査の縮小

甲状腺癌が増加しつつあり、検査は、縮小の方向にあり、何か間違ってますか？行政。

検査に行けない

- ・甲状腺検査は、他県（岡山県）だと、受診機関がかなり限定され、日時（曜日）も、限定されすぎていて、フルタイムで仕事をしていると行けません。もう少し検討していただけるとありがたいです。
- ・昨年子供が生まれ、内部被爆など測りに行かなければと思うのですが、なかなか行けずにいます。生まれた子供の将来にも関わるので、近いうちに行きたいです。

甲状腺検査だけでは不安

- ・体にかんしても、のどに甲状腺検査はしているが、それだけで大丈夫なのか？
- ・甲状腺の検査のみしていればいいのか？それだけでは満足はできない。

甲状腺検査についての要望

- ・甲状腺の検査も福島の子供たちだけ調べても意味があるのか？今まで調査した事がなかったと思うので、震災前はどのくらいの子供がどのくらいの状態にいたのか？分からないので比べようがない。県外の子供も調査してもらえると影響があるのか？比較できる。
- ・震災当時、放射線に対して身体への影響が問題視されていましたが、こうして7年を経過しようとしている現在、身体の不調は全くなく、大丈夫だろうという思いで過ごしています。だからと言って、定期的な検査を無くしても良いかというわけではなく、継続していくべきであり、また地域を広げて、会津地方、隣県も検査をしていくべきだと考えています。（原発による健康被害があったと人づてに聞いたので…）

イ 積算計（ガラスバッジ）

積算計を持つことを疑問に思う声がある一方、積算計によって安心感を

得ているという意見もある。

関心の低下

- ・市から貸与されるガラスバッジやホールボディカウンター等の検査を面倒と受け止める人もいます。これからは、それぞれの価値観・選択を大切にしながら、必要に応じて選択できるような支援体制が大切なのではないかと思います。多様な価値観・選択肢を認めることは、この問題に関わらず、これからの社会に大切なことであり、子ども達にも互いの違いを認め合える大人に成長してほしいと願っています。
- ・ガラスバッジは何のためにもたせているか？あまり関心をもたない人も多くなってきました。息子も戸外であそぶのを好み、私もあまり放射線を気にしなくなったため、とくに制限もなく遊ばせています。
- ・小・中学校の子供たちは、一定期間の線量バッジを申し込み（中学校）毎回データを提出していますが、当初はどこの子も首からぶら下げている姿が見受けられましたが、自分の子も（私自身が）そうですが、出掛ける度にもち歩きはしていないことが多くなってしまいました。他の子供たちもあまり目にすることがなくなってきました。
- ・完全に震災前の生活に戻っており、平和ボケしている。線量も気にならないし、たまにガラスバッジを付けている子を見ると今さら？と思ってしまう。

線量が下がり安心

- ・住んでいる地域や自宅周りの除染も済みました。小学校に通っている息子たちや3才の娘も、ガラスバッジを配布され、測定結果をみると、年々、数値が下がってほっとしている気持ちもあります。

実施に疑問

- ・市では、ガラスバッジという放射線の量を測定する機械を子どもたちに毎日持たせて3ヵ月ごとに返却し、新しいのをまた渡して持ち歩かせるというのを続けてますが、やっている意味があるのか？と思うときもあります。もっと意味のあることを実施していただきたい気持ちがあります。

す。

特徴

子どもの検査に関する意見は減少傾向であるが、検査を負担に思う声と検査の継続を望む声の二極化している。甲状腺検査だけでは不安だという声や検査に関する要望の声もあった。積算計（ガラスバッジ）に関しても、持つことの意味に疑問を抱く声と、使用することへの意識の高い意見とに分かれている。

(3) 母親の妊娠・出産

妊娠・出産

- ・今のところ息子には何の異常もありますが、今後の健康、未来に不安を感じずにはられません。2人目もあきらめることにしました。今ある幸せを大切に守っていくことで、私達は精一杯だと思っています。

特徴

母親の妊娠・出産に関する意見は両年ともに1件である。

6 人間関係

人間関係に関する意見は、「家族・近所・知人」、「外部」の2つに分けられる。

(1) 家族・近所・知人

夫や親との間に放射能に対して考え方に相違があるため、ストレスになることがある。また、事故から7年が経過し、近所や知人との間で放射能に対する考え方に違いがあるため、会話に気を遣うようになり、気にしていることを言い出しにくく感じているという意見があった。

夫婦・親

- ・震災のことをはじめ、教育方針や家計の事などどんどん夫との考え方がちがいが出てきていて、全てのことを考えたりするのが私一人なので、常に何かを心配して、不安に思っ、家事や習い事の送り迎えなど…体調や精神的にも良くない状態が続いているのでとてもつらい毎日です。しかし、「気持ち弱いがからだ！」と言われるだけなので今は本当につらいです。ただそれだけです。
- ・昨年 3 月夫方両親が避難先から自宅に戻ってしまった。自宅付近にあるガイガーカウンターを見ると、 $0.4 \mu\text{sv}$ 以上ある。少し外れるともっと高い地域も。祖父母は会いに来てほしい様だが、子供のことを考えると連れて行きたくない、というのが本心。他の親せきは孫のことを考え移住したのに、と考えてしまう。夫が長男なので、将来戻って来いと義父が言い出しかねないので不安。昨年、義両親が自宅に戻ってしまったあたりからストレスで私は体調不良、精神不安定に。曾祖父母の為にも自宅に戻った義両親を考えると何も言えず。理不尽にふるさとを追われた事を思うと、夫方のストレスを感じ何も言えない。

近所・知人

- ・転勤などが叶うのであれば、購入した家を売却しても、この地を離れても構わないと思う。まだまだこの地で新しく出会う人たちはいる。会話で出身は？となる。そして必ず何年になる？と聞く。この地で生まれ育った人たちは必ず、私の出身を聞くと一瞬止まる。厄介者を受け入れた気持ちもあるのだろうか。この地へ、他の地から何らかの縁で来ている人からは、感じない。私の思い過ぎだろうか。やはり避難してこの地にいるとは思いたくない。どうして避難＝悪い事の様なイメージが強いのだろう。
- ・息子は今、サッカーに夢中で、春から地元のサッカーチームの強化チームでがんばることになりました。そこで心配が…。よく試合をする事になるのですが、場所が浜通りの柵葉町に行くことが多くなり、そこは福

島原発から近い場所で（元J ヴィレッジ）、度々行くことになるか…と思うと少し不安なのですが、ほんの数時間程度だし、とも思い不安な事を周りのお母さんに言い込まずにいます。コーチなどにも言ってみようか、と思ったのですが、小さいお子さんがいらっしゃらない方などは、ほとんど気にしていない、という事が多いので、息子に不利な事があつたらという思いから、そういった心配は言い出せずにいます。

- ・国への不信感は、いまだにあり、定期的な検査も、あとから何かあった場合（ガンなど）この事故のせいにされない為に、させている検査なのではないか…などと私自身、ゆがんだ考え方をしています。ただ、まわりにもう事故の不安を語る人はなく、そんなことを口にする人は“少し変わった人”と思われぬか不安で誰にも話していません。皆も同じ気持ちで、さぐりさぐりなのかもしれません。
- ・年数が経つにつれ、子ども達も大きくなり、震災の時子育てをしていなかった新しいママ達とは意識の違いを感じる。周りは復興に大きく動いており、震災の中でも原発事故について話す人はほとんどいない。その事について心配している自分が神経質なのかと思ってしまう。ある新聞社が原発被害による保養について記事にしてくれた。初めはその必要性について問われ、保養に批判的だった記者さんが、親として子どもの将来を心配する気持ちを、自分も同じ親として考えてくれるようになって記事にしてくれた。しかし、その記事が新聞に載ると、新聞社に非難の電話が殺到したとの事。私達は復興を邪魔する気などない。ただただ見えないものに不安があるだけ。子の未来を心配する親がいる。たったそれだけなのに、なぜそれが非難されなくてはいけないのか。色々な考えを持つ人がいる、それは尊重されることであって他人に否定される事ではないと思う。その気持ちをどこにぶつければいいのか。それに対して不満も不安もあるし、それを共感する仲間も探せない。
- ・同じように災害をのりこえてきたご近所や、ママ友さんとの絆は深まっているように思います。

- ・放射能の不安を口にするとおかしな人だと言われる様で、保養などで知り合った、特定の人にしか話すことができない。前よりもそれが強くなったと思います。

(2) 外部

「福島」出身者に対する差別や偏見を不安に思う意見が増加している。特に、将来の結婚、県外に出たときの差別を不安に思う声が多い。

いじめ

- ・福島県内の学校でいじめが原因で自殺をしてしまった子が出てしまい、とてもショックを受けました。子ども達は何も悪くないのに犠牲になるのはおかしいです。
- ・子供が成長するにつれて、不安や心配な事の種類が変わり、増えました。現実化してきてる?! 子供も知識がついてきて、理解できる事もあるし、子供自身の意見も出てきたり、…。これから、他県などの学校などで行ったとき… 更に心配が増える世の中では困ります。本当に実際のところ、福島の子供や、食べ物などへの視線が、一部でしか表向きになっていないので、オープンにしてもらいたい。福島の子供たちでも、どこへ行っても、他の子と同じように、どうどうと学べる世の中になってほしい。
- ・年々、震災や原発事故を思い出したり、悩んだりすることは減っています。しかし、子供たちが大きくなり、大学進学や就職のため福島を離れる時がきたとき、いじめや差別を受けないかがとても心配です。

結婚

- ・原発事故から7年がたって、ほとんど忘れられている気がします。除染で出た土などは、掘り出して保管場所に運ぶ作業が間もなくはじまります。ただ、子供を育てている身としては、これからまだまだ心配な部分もあります。成長していくなかで、甲状腺に異常がでるのではないかと、結婚を考える年齢になって、本人の希望どおりにうまくできるだろう

か？福島だからと反対されないかなど考えることはあります。どんなに時がたっても、あの時を完全に忘れることは、ないと思います。

- ・自分自身、放射能のことが日常生活ではあまり気にならないようになりました。線量は下がって安心はしていますが、子供の将来は心配です。県外の方から見ると、「福島出身」と聞いて、嫌な気持ちになるのかなあとふと思います。子供の結婚や人間関係に影響を受けなければいいのですが。
- ・子供達が将来結婚する際に、相手の方が他県だったりすると相手の親の反対があるという悲しい話も耳にします。子供達は何も悪くないのに…と現在の情報等に疑問を感じます。正しい情報を発信してもらいたいです。インターネットで便利な世の中ですが、怖いことも多々あると実感する今日この頃です。
- ・子供たちが大きくなり、とくに上の娘は女の子なので、結婚等で他の地域に住む方から不利なことを言われたりしないか、漠然とした不安はある。
- ・同じ職場の人で、関東の大学に在学中の娘さんの話ですが、お付き合いしている彼氏が、そのお母さんに、福島の人はやめなさいと言われたそうです。原発事故による風評被害は、これからも続いていくのかなという不安は年々増えています。そういう影響を我が子が受けないようにと願っています。

差別

- ・だんだんと過去の出来事という印象になっています。今後、子どもが大きくなり、「福島出身」ということで、不利になるような世の中にならないといいなと思います。
- ・3月に海外へ引越しますので、そちらで、福島にいたことを言われなにか心配している。
- ・大人になってからの子供達の事が、心配です。福島県出身というだけで、受け入れてもらえないのではないかという心配もあります。

- ・世間は、震災の事、原発の事を忘れてきていますが、娘が大きくなって福島県から出てほしいと思っていますが、いろいろな偏見を受けるのだらうと思うと、不安と、もうしわけない気持ちでいっぱいになります。
- ・原発事故が世間的に忘れ去られても、こども達がその時福島にいた事実は変わることはなく、あと数年経ってこども達が県外に出た時にその事実によって心をきずつけられたりしないか精神的な不安もずっと続くと思います。
- ・廃炉作業がこれから長く続き、少ないながらも放射能は出続けていると思っています。子供達の将来を考えれば他県への移住がよいのではと考えています。「フクシマ」という言葉が将来に悪影響がでない事を願っています。
- ・何もかも通常通り動いていますが、この県より外に出た時、将来を考えると、老いていく自分たちはよいのですが、子供たちはどうなのだろう…県外の子供たちからはどう思われてるのだろうとふと考えてしまうことはあります。
- ・子供達が大きくなって県外で働いたりした時に、あの時福島にすんでいた人、放射能をあげた人、など思われ、差別をうけたり批難の声があがるのではないかと心配です。この不安は、たぶん一生あるのではないかと思います。
- ・以前（昨年 GW）に家族で他県へ行った時、中年の女性の方が、私たちの車のナンバーを見て、「あら、やだ！！福島県車だよ」と言いながら通りすぎていきました。何年たっても、こういう心ない言葉を聞くのかなあ…と少し悲しい気持ちになり、また残念な思いをしました。
- ・気がかりなのは子ども達のこれからです。上の 10 才の娘は甲状腺検査で初回から嚢胞があることを指摘されており、医療従事者の私から見ると、それ程深刻にならなくても良いと感じるものでも、娘本人が成長した時にどうとらえるか、他県の人達からどう見られるか、根拠のない差別を受けたりしないか、心配な気持ちは消えることはありません。

- ・震災の年に生まれた次女が春から1年生になる。当時のあれだけ騒がれていた事が、まるで何もしなかったことのように忘れられている感じがする。当時から放射能汚染を気にしたりする事はほとんどなかったが、(周囲が驚くくらい)子供の将来を考えると、多少なりとも「福島の子ども」という差別はあるのではないかと思う。特に女の子だから、というのもある。
- ・今は、福島県に育ったということで、息子が将来大学などに行き、差別や偏見につらい思いをしないかと心配になります。きっと、福島県の人への気持ちは、わからないでしょう。
- ・この福島で生活している限りは特に心配となること、ストレスを感じることはなくなってきていますが、福島ナンバーの車で県外に出かけることに、少々ストレスを感じるところは正直あります。県外の方がどう思っているかは分かりませんが、偏見は必ずあると思っています。今後、先々のそんな不安はあります。自分たちはいいのですが、子どもたちが大人になった時にどんな風評被害に遭遇するのが心配ですね。
- ・今は身体的にも精神的にも問題はありません。小学校の行事でも校庭で普通に行う様になっています。私の周りでは震災に関する会話は全くありません。でも子供たちが大人になり、県外に住む様になったりした場合に、福島県出身だけで偏見の目で見られたりするのが不安です。女の子なのでなるべく遠くに行くのは反対してしまうかもしれません。

その他

- ・3月11日にTVで(全国)放送されますが、それ以外他県ではどの位ニュースになっているのかなと思います。福島の新聞では、なにかしら毎日原発事故の文字を見ますが、いつまで続くのでしょうか？普通に生活していると思っていても、やはり他県の方々から見れば、福島県人は、普通ではない所で生活している人なのですかね…。
- ・福島県内、福島市内の状況としては、落ち着きを取り戻しつつあるように感じます。他県の人から見た福島の人へのイメージは、変化があるんで

しょうかね？気になる所です。

- ・他県の人達からも、私達中通りの人達まで、未だにずうーっと補償を受けているとかんちがいされている方々も多いので、それは違う！！と声を大にして言いたいです。何十年後、福島の子は皆、大丈夫だったと言える… 何十年後、福島に住んでいて良かった… 何十年後、自分達の判断は正しかった… と胸を張って言えるように。
- ・あつという間の7年間だったと思います。線量も下がって、避難解除の地域も増えていますが、原発の廃炉にはほど遠く、県外に出たとき車のナンバープレートをじっと見る人がいると、やはり気になったりします。
- ・忘れてはならないと思いつつ、日々の生活では忘れてるのが現状です。不安も特には感じていません。ただ福島出身と胸を張って言えないのが事実です。何ともないように周りには話しますが、内心マイナスイメージでとらえられているのではと感じてしまいます。

特徴

「家族・近所・知人」に関する意見が19件（2017年）から14件（2018年）に減少し、「外部」に関する意見は、153件（2017年）から56件（2018年）と大幅に減少した。「外部」に関する意見は、昨年福島からの避難者へのいじめ報道で大幅に増加していたが、時間の経過とともに、減少したと考えられる。

7 情報

情報に関する意見は、「情報不信」、「風化」、「風評被害」の3つに分けられる。

(1) 情報不信

情報不信については、ニュースや新聞などの報道や国・東電が出す情報に信用できないという意見が多い。また、子供の甲状腺検査の結果などに

ついて、もっと詳しく報道してほしいという意見があった。

報道の不信

- ・ほぼ思い出さない。皆、何もなかったかのように生活しているし、話題にもならない。だけど、この影響がいつどこで出てくるのか？大丈夫と言う人たちは何を根拠に言っているのか？信用出来る情報は何もない。
- ・今さら放射能の話をして…という感じはあるが、実際子供や私たちの体にどれだけ影響があったか…というのは気になる。しかし、どの情報でも影響はないという言葉ばかりでウソか本当か分からないなというのが率直な思い。
- ・福島原発敷地内出来事の他、汚染土壌等環境への影響、動植物全てのものに対する影響の問題が、問題に対しての対応内容が周知されているのかどうか、今後も引き続き気に掛かります。
- ・福島に住んでいるだけで、補償やお金をもらっていると思われる人がいる事におどろきました。
- ・日々、慌ただしく過ごしているので、7年も経っているという実感がありません。震災後は、ただただ、息子が不安になったり怖がらないように、今までのように毎日を「何事もなく、平穏に…」と言い聞かせて、不安と戦いながら、子供との時間を大切にしていました。家族や友人、身近な人たちとのつながりが私に勇気をくれました。ただ、それと同時に、そんな不安な気持ちの私達を利用しようとする人たちもいるのだと気づかされ、憤りを感じる事もありました。テレビやインターネットでの主観の押し付けを目の当たりにした時には、これまで信じていたニュース記事について100%信じてはいけないと思い知らされました。
- ・他県の方から見れば「福島県」とひとくくりに見られているので避難区域の方などの補償額などで“福島県民は強欲だ”と思われるのだろうな…ととてもイヤな気持ちになります。放射能問題で悩んで泣いた日々…恐怖…でも周りの県の方はそういう気持ちや、少しの補償で済まされた中通りの人間と、たっぷりの補償でぬくぬくと外車、ガレージ付

き戸建ての人と同じ“福島県民”として見ている事に心の底から悔しく、悲しい気持ちになります。しかし、原発事故当時、大阪や他県の方から“がんばって”と励ましの声を頂いた事もあり、福島県民内の醜い感情を恥ずかしくも思います。心の中が7年経ってもモヤモヤします。

- ・ニュースで復興に向けて頑張っている報道は流れるが、子どもの甲状腺結果などはあまり取り上げられる事がないので、もっと詳しく報道してほしいと思う。
- ・情報にあまりおどらされないようにしたい。

正確な情報を得たい

- ・原発は、今もどうなっているか、分からない。分からないから不安。現在、原発に関して調べる、心の余裕がない。
- ・原発の今の状況をもっと正しく知りたい。子どもの将来の体については、不安はある。
- ・放射能への関心も薄れてきているが、数年で娘の甲状腺検査は A1 から A2 になってしまった。これがこれからどう変わっていくのか、ひどくなるのか…不安に感じることもある。原発事故後すぐと、今の状態がどのくらい判定に違いがあるのか知りたい。
- ・一番は、子供の将来について、他県に行った時等に嫌な思いをしないか、健康面において、大病につながらないのか等、大変不安に思っています。メディア等、しっかりとした信用できる情報を発信してほしいです。苦しむ子どもたちを増やしてほしくないです。

(2) 風化

事故の記憶が薄れていったことから関心の低下や、話題にならなくなったという意見が多い。そのような中で、自身や周囲の原発事故の風化に対して不安や心配に思うという意見や、風化させてはいけないという声があった。

意識しなくなった

- ・引越し先での生活が3年目になります。日々の仕事をしていると、原発事故の事や震災の事を通り過ぎて行きます。ふと、忘れていた自分がいて、人間の記憶はもたないなと思ってしまいます。
- ・日常に戻った感じがある。このようなアンケートや報道等のきっかけがないと、震災・原発事故があったということを意識しないようになってきている。
- ・いつのまにかもう7年…といった感じです。原発事故の影響なく生活することができています。まずは、子供たちが順調に成長しているのがなによりです。伊達市に住む自分がもう7年も経つと思っているくらいなので、震災にあわなかった人は、もっと記憶がうすれているのかなと思います。
- ・時間とともに、原発事故のことを考えることは、ほとんどなくなってきました。避難を続けていれば、まだ意識していたと思いますが、人間は自分のおかれている状況が安全でないと考え続けることはむずかしいのだと感じます。
- ・7年たち、すっかり風化しています。気にする人は変人のように扱われます。
- ・公共の場に設置してある空間線量を知らせるメーターを見ても、事故や震災と関連づけて考える事が自分自身できなくなっている事に気づき、「風化」という言葉が見にしみて感じる。実際に住んでいる自分がこうなのだから、他地域にお住まいの方々にはどの程度のもなのかわかりにくい。風化した方が、子どもが将来県外へ出た時に受ける差別の不安は減るが、果たして本当にそれでいいのか悩むところだ。
- ・完全に自分の中でも風化してきています。考えなくもなってきました。なぜなら、子供の体が大丈夫だからだと思っています。実際、ガン等の放射線が影響している病気になっていたら、風化する事はなく、今でも考えると思います。自分達家族の誰にもそういった症状が出ていないか

からです。かといって、これから病気になるのかなんて考える事も無駄だと思います。今の福島に住んでいくしかないので、普通に何事もなかった様に、毎日を過ごしています。何か体に異変が出たら、考えるとは思いますが。今となっては「そんな事もあったな」と軽く考えてしまう自分がいます。

- ・正直、あの時の気持ちや戸惑いを忘れる事が多くなってきています。ただ、子供が成長した時、健康でいれるのかどうか。考えると不安になります。影響が出ない事を願います。
- ・県内に住んでいる私たちが、忘れてきているのだから、県外に住む方が忘れてきているのも仕方ないのかな…と思う時もあります。
- ・夫とも、この7年で何か良い方向に向かっているのかねと話しました。何もあまり変化もなく、逆に風化していると感じます。今の生活になれてしまっている…というのか、毎日ニュースでも放射線量の測定値が出ますが、だから何?? と思っている人達多くいるんじゃないかな…。どこまでが本当で、どこまでがウソなのかわからず、毎日を生活しています。ただ、毎日思うのは、子供達がずっと健康で元気に過ごせますようにという事です。

除染作業が日常になった

- ・7年経つと共に、どんどん忘れて行くな～と感じます。近所で除染作業をやっている方々を見ても、「あ～除染ね」という感じですし。おとし起きた熊本地震もそこに住んでる人からすれば記憶に新しい出来事だと思いますが、他県の人からは忘れていく出来事だと思います。（阪神も同じく）被害（家がこわれたり、身内がなくなったり、または帰還困難地域の方）にあった人自身はまだ7年だろうけど、正直他の地域に住んでる人からはまだ何かやってんだ（損害賠償とか訴えたり）と思っています。
- ・日々忙しく過ぎていくと、原発事故のことを忘れていることもあります。除染作業を目にしても、日常の一コマとなって、特別なこととして

認識していないんだと思います。自分の中でも事故のことは風化しているんだと思いました。

関心がなくなった

- ・原発事故の記憶は今でもはっきりと残っています。しかし最近ではニュースで放射線量をお知らせすることを聞くぐらいしか関心はなくなっていました。残念ながら今福島では限られた人々が関係していることと原発事故の件はなっています。
- ・震災、原発事故について、全く考えない、思い出さない日が増えた。自分の中でも風化しているのかも。災害に対する備えもしておらず、時々チラシやテレビ番組を見て、今はこういう物も出ているんだとどこか他人事のように考えている自分がいる。

風化が不安・心配だ

- ・原発の話題が全くといって良い程出なくなった。このまま風化するのは？と不安になります。
- ・風化していくのが怖いです。
- ・風化が進み意識が低くなってきている。それが良い方向でもあり悪い方向でもあるという多面化しているように感じる。
- ・7年近く経つと原発事故の風化を感じ、放射能等の話すらでなくなった。不安を感じつつも、何十年後、その時が来ないと結果！？が分からないという事もあり、震災前の生活とあまり変わらず過ごしている。何も影響（健康被害）がない事を祈るだけだ。
- ・最近では原発の様子もあまり情報として入ってこなくなり、以前にもまして風化してきているようにも思えます。まわりでは風化していても、いつまでも心の底には不安を抱えているのは福島にずっと残って生活している人たちだと思います。
- ・原発の事を忘れていく怖さを感じる。あの事故で体感した嫌な思いをもうする人がいない世の中にしてほしいと願っている。
- ・震災の風化が著しい。放射能汚染の危機感が薄れているので、それが怖

いです。

風化させてはいけない

- ・ 風化しないようにしなければいけないと思います。
- ・ 我が家の近くにあった避難区域に住んでいた方々の仮設住宅も無くなり、嬉しくはありますが、なんとなく原発事故の風化を感じたりもします。でも、原発問題に終わりはないと思いますので、これからも風化させたくないと思います。
- ・ 風化しているように感じる。風化させない活動の取り組みや、活動を知ってもらいたい（震災の時期に関わらず）

話題にならなくなった

- ・ 5 年を過ぎた頃から、テレビ、ニュースなどで取りあげられなくなってきた。風化を感じる。5 年たっても 7 年になっても何一つ変わってはいない。
- ・ 震災の話も原発の話もいいのかわるいのか全く会話にあがらなくなりました。福島県民ですらこうなのですから、他県の方はなおさらだと思います。風化させてはいけないと感じつつも、震災の影響をあまりうけていないせいか忘れつつあります。ただ、他県に住む方がまた福島県産のりんごを喜んで食べてくれるのには喜びを感じました。
- ・ 私の住んでいる地域では、原発のことはほとんど話題にもならない程、忘れられています。学校のモニタリングも、通る時、無意識に見る程度です。子どもは定期的に検査を受けていますが、将来も何も影響がないものと信じています。
- ・ 7 年が経ち、周りで震災の話をする事も少なくなり、風化していると感じています。
- ・ 今となっては、誰も原発の話をする人は、いなくなりました。震災の話もしません。風化している感じがします。
- ・ 郡山在住ですが、放射線についての不安や話しはほとんど保護者の間では出ません。放射線に対する不安などは軽減したからだだと思います。自

分達が選んだ生活なので、不安の中では生活したくありません。何かの折に当時の事は苦勞話となって話すことはあります。忘れた、忘れたいという気持ちより、今の生活が大切なのだと思います。

- ・風化を感じます。周囲で、原発の話は全く出ません。自分からも、言い出しににくいです。おそらくみんなも同じようなことを思っているんだろうと思いますが…。
- ・身の回りで震災や原発事故の話題が出ることはなくなりました。まだ苦しんでいる方々、住んでいた町に帰れない方々も多くいますが、皆忘れたように普通の生活を送っている。TV などでも取り上げる機会が減ったように思います。子どもたちは元気で学校に通っているし、最近大きな地震も起きていないので今の所は安心して暮らしています。
- ・原発から7年になり、日常会話の話題にはあまりというか、ほとんど上がってきません。風化してきていると思うし、感じます。

意識のずれ

- ・県外の人には特に風化してしまったと感じる。県内でも、沿岸部から離れている地域の人々にもそれを感じる。沿岸部に実家があるが、若い人が戻らず、店や病院の状況が以前のようにまだまだなっていないのをさみしく思う。いろいろな面で格差が出ていると思う。
- ・TVなどで取り上げられる機会も減り、自分たちの周りでも話題に上がることも少なくなりました。この話をする事で「まだ言っている」という目で見られているような感じがします。賠償問題も福島県内でかなりの格差があるように感じます。風化も進み、この先ますます話しづらい環境になっていくのかと思うと、生活する上で心が複雑です。

もう忘れていいのでは

- ・7年、もういいのではないか、と思います。原発の近くではなく、海の近くでもなかった為、気持ち的に経済的に、あまり影響を受けておらず、いまだに仮住まいの方々に比べ、自分の気持ちももういいのでは、と風化ではないが、落ち着いています。このままずーっとなのでしょうか。

どこかで一段落つかないのでしょうか。

(3) 風評被害

事故から 7 年が経過し、土地や食べ物に対する風評被害に苦しむ現状を危惧する声がある中、福島が安全であるということを他県の人にわかってもらいたいという声もある。

風評被害

- ・良い意味で風化していくのはかまわないと思うのですが…。あまり福島・福島と取り上げないでほしい。そこに暮らしている人々、当たり前の生活を普通に営んで、楽しんでいるから。
- ・県内の方は、除染をしているので、周りの安全を実感していますが、他県の方はまだ「危険な所」と思っていることが心配です。
- ・果樹栽培をしているので、風評により売上は下がっています。
- ・もうあれから 7 年経つんですね。他の都道府県の方から見ればこのまま、ずっと、「フクシマ」なのかな。
- ・風評被害は依然としてある。正しい事を理解してほしい。偏見がなくなれば良い。
- ・福島が大丈夫だということを他県の人にもわかってもらいたい。
- ・私の住んでいる地域は、福島の中でも比較的原発の被害が少ないところ。浜通りに比べて安全なところで安心してくらせています。しかし「福島」というひとくくりで風評被害などを TV や新聞で見ると残念ではありません。また、被害が少ない事で「よかった」と思っている事が本当に喜んでいい事なのかと少し疑問に思う事もあります。
- ・国や東電など信用できないところも多いので、とにかく自分で情報を集めて自分で判断するようにしています。最近どなたかが「まだ事故は続いている」というような主旨の発言をなさっていて、これが全国の共有情報になればと期待しています。風評被害という言葉を安易に使う人が多くて嫌になります。時間もお金も少ない状況ですが、できるだけ家族

一緒に安心して楽しく暮らせるようがんばります。

特徴

「情報不信」に関する意見は159件（2017年）から134件（2018年）と減ったものの、国・東電の情報への不信感を訴える意見は依然として多くみられた。「風化」に関する意見は108件（2017年）から90件（2018年）に減少したが、「風評被害」については14件（2017年）から16件（2018年）で若干増加している。事故からおおよそ6年が経過し、忘れられていくことへの不安を抱く声が多く見られた。

8 賠償・補償

行政や東電が行なった賠償・補償の線引きに対し不公平感があり、その恩恵を受けている人に対して不快な気持ちがあるという意見が依然として多い。事故から7年経っても、多大な賠償をもらっている人の生活の様子を目の当たりにして、不快感を抱くという意見が多くあった。また、寄付金を他のことに使うべきだという意見や、公平な補償を望む声もあった。

避難・賠償の取り扱いに差異のある人への怒りや不快感

- ・近所に、浜通りの人たちが、たくさん震災後に、引っ越してきたのですが、その人たちは、とてもマナーが悪いです。地区会などに入らず、人づきあいも無いし、社会参加をしていないので、元からここに住んでる人たちは、よそ者と見ていて、「賠償金をいっぱいもらって、その金で、高い車を買ってて…」と偏見の目で、見ている人が多いです。
- ・補償金（賠償金）の差があるのは、納得いかない。せめて、子ども達だけでも補償を続けていてほしいと思う。
- ・同じ福島県内なのに不平不満が未だに根強く、原発事故さえなければこんなにギスギスしなかったであろうと思います。やはり高額な補償金（賠償金）をもらい働かずにパチンコ等で遊びくらしている人の話など未だに聞くのは嫌な気持ちになります。（全ての人がそうではないとは

思っている）福島県内でさえそう思っている人がたくさんいるのだから、県外の人からの風評もなくなるのも仕方ないのではと思います。

- ・ 補償については不公平を感じます。避難の方は大変でしょうが、私たちの地区は避難してこられる場所となっています。家にお金が入っている人の中には、中学生がタクシーを使って遊びに出たりしている子もいます。誰のための補償なのか、あたりまえの生活が安全に送れることを望みます。
- ・ 避難している人への補償ばかり続いていてずるい。毎日パチンコして遊んでいるのを見るとイライラする。毎日毎日まじめに働いても生活が苦しいのに、仕事もしないで、当然のように大きい顔をされるのは不愉快です。早く出て行ってほしい。
- ・ 近所に、家に帰ることができない方々が家を建て、小さい集落ができました。暮らしぶりを見ると不満を感じます。
- ・ 賠償で1人1000万ずつもらって、家買うんだあ、なんてきくとがっかりする。未だに不平等感はある。被災したといいながら、東電職員家族が2区画の土地に大きな家を建てていたりすると心がザワザワする。
- ・ 補償の不公平感を多くの人が感じているが、皆、口には出さない、言にくさ、を持っている。もう、補償は打ち切っているのではないかと、思っている。毎月補償金をもらっている人は福島の一部の人ですが、他県の人の中には、福島県の人々が皆受け取って生活していると思っている人がいる。実際、私も「もらっているんでしょ？」と言われました。（1年位前に）（事故直後に、確かに一時金の補償金は申請して頂きました。） こういう話をこういう風にすることも、なんとも切ないものです。
- ・ 被災された方は大変と思いますが、いつまでも補償にしがみついて生活しているのはどうかと思います。それなりに原発に恩恵は受けていたはずで。補償されることによって贅沢な暮らしをされている方が沢山います。被災したのは福島の人だけではありません。東電の補償に頼りすぎ。自立しましょう。

- ・一生福島に住み続けられるのか、それでいいのか、悩んでいて持ち家をもつ決心がつかなかったが、ようやくこの地におさまることを決め家を購入。以前住んでいたマンションには、避難民が、お金だけ払ってかっていた部屋があり、それを目のあたりにして不快であった。今度は、また原発補償金で建てられた家の近く。震災はいつでもどこにでもつきまといてくることが嫌です。
- ・あれから、年数ばかりが経ち、原発で住めなくなった区域の人たちのみ手厚い補償をされているのが、目立っているように思います。原発区域をがんばって除染作業し、お金をかけ、復興しようとも、当の住人たちは、もどるとは到底思えず、無駄にお金だけが動いているように思います。復興にはたくさんの労働者そしてお金がかかるのは、承知していますが、電気料金値上げや、税金の値上げ、どこに明るい未来が見えるのだろうか…。今でも生活に苦しまなければならない実情。
- ・国も県も市も東電も、今ここに居て普通にしているうちらに対し、不公平だと思う。「原発」と聞くだけでイライラする（家族みんな）。お金で済む問題ではない（一生）。補償プラス、心のケアを1人1人にしてほしい。人間に対しての汚染はかなり深刻なのに、かるく考えられすぎ。
- ・福島県内で、裕福になった人、変わらない人、いろいろいると思います。やっぱり不公平さは、とても感じます。感じたところでどうにもできないですけど。
- ・ここもかなりの線量だったのに他から避難してきた人たちが、大きな家を建て、仕事もせずにくらしていることを不思議に思う。
- ・不公平を感じます。
- ・賠償金をもらっている人たちに対して、不公平感をずっと持っています。私たちは一生懸命働いて、節約して生活しているのに、働かず朝からパチンコ店に並んでいる被災者（と呼ばれている人たち）がいます。高級車に乗っている人たちがいます。医療費も介護保険のサービスも無料です。十分に補償をもらって、福島市に豪邸を建てています。

- ・ テレビなどでもほとんどさがれなくなったが、国や東京電力からの補償の差に不平等を感じる。
- ・ 福島市は、放射能汚染がひどかったと思います。でも東電の賠償金をかなりもらってる人たちの持ちものを見ると、高級な車やパチンコなど、同じ県民でも、最初は大変だねとの思いから、今は高額なお金をもらって遊んでるとかの話題は、今でも私のまわりで出ています。
- ・ 私は福島に住んでますが、実家は宮城です。実家に戻ってニュースなどを見ても殆ど震災のニュースはないです。ごくたまに訴えたりニュースはあるけど（丸森町とかで）何だろう、福島の人が訴えたりするニュースより悪い感じがしません。福島の被害者は全員がそうだとは言いませんが「金、金」と言う方が多い様に感じます。うちの近所の人も未だ仕事もせず、今時期なので家族でスノーボードに行ったりしてます。（5人家族で改造した高級車に乗ってます）こういう人にも未だ賠償金を払ってる事に納得がいきません。
- ・ 避難された方もつらいと思いますが、賠償金をもらって生活している人はずいぶんいい暮らしをしていると思います。なにもないのはしかたないけど、物価が高いような気がして生活も仕事もなんのためにしてるのかな…と感じることがあります。そんな風に思ってしまう自分にも嫌気がさします。それも強くなっています。
- ・ 原発での避難で仮設に住んでいた人達が、元々住んでいた人と変わらず、家を建て大玉村民として（？）生活し、見る限り（個々で）は区別が付きません。でも、それは表面だけであって、内々ではこのアンケートを書いている地域の人はみんなわだかまりをかかえています。Jアラートが鳴った頃（その後しばらくも）、テレビでたまに出る緊急地震速報などで、多少、絶望がよぎったり、夜に、眠れなくなる日々もありました。賠償で、移り住んだ人が、1軒で車（高いの）4台、エアコン6台（物置きにも）犬5ひき（服を着ているような種類）と、まるで芸能人のような人並み外れた生活をしているのを毎回通う道で見かけるの

で、よほどひどい事故でだから、そんなにお金が払われたのかなあと
思い、忘れて、地震前の気持ちに戻りたいのに、身近で不快です。公務員
も、ハデな車を買ったり生活したりしないようにと言われているそうで
すが、そういうことも必要だったと思います。あからさまな家に住んで
いるのに住んでる人はかかわらないでという態度だったりします。こう
いうストレスはどうしたらいいのでしょうか。

- ・南相馬の友人の家は、すぐ近くまで（同じ地区で分断）避難地域がある
とのことで、もらう金額に大差があり、心にすきまが生じているような
感想を聞いた。近くにも、（同じ学校の生徒にも）避難している方がい
るが、父親が仕事をしていずもう7年たとうとしている。5才位の下
の子もいるが、その子は親が働くという姿を見たことがないので、その子
が大人になった時にどういう人間に育つのだろうか…と、他人の事では
あるが心配になってしまう。率直に言えば、戻れない（戻らない）ので
あれば、さっさと新しい道を見つけて、いわゆる普通の日本の家庭を築
くことができれば良いのにと、やっかみか手当ての厚さに対する腹立た
しさかよくわからない気持ちがある。郡山には避難者がたくさんいるの
で、特にそう思うのかもしれない。
- ・原発から離れているから何の補償もないし、補償されている方達はりっ
ぱな家を建てたり補償されているのを聞くと差別を感じてしまう時があ
ります。そんな思いがこの先ずっと続くのかと思ってしまいます。
- ・近所で家を3軒も、新車も次から次へと変えている、補償をもらって
る方たち、多くいます。ランドセルもらったり、医療費もタダなんだと自
慢げに言ってきます。そういう方たちが多く引っ越されてると、近所
の方との交流も避けるようになるのだと思います。
- ・きちんと生活再建し、自立した生活をしている人と、いつまでも賠償金
に執着している人とが混在しており、何も賠償をされていない地域のた
め、少なからず、皆、不平等感を持って生活している気がします。避難
している方の子供が大金を持って遊んでいたりする事もあり、将来、自

分の子供が社会的なつき合いをしていく中で、悪い影響がないかが不安に思う事があります。なので避難区域が解除されたら、元の地域に戻ってほしい。または、戻らないと決めた方は、同じ地域の人と同じように一切賠償金にたよらず、あたりまえの生活をしてほしいと思う。

- ・避難されていた方が、となりの土地（広い）を買い、家を建て、ひっこしてきました。ちなみに、車は外車。ひっこしてきた時に、ていねいにあいさつに来てくれて、人の良さそうな方で安心しました。数日後、カーポート（丈夫そうな大きなやつ）まで設置していました。避難の人はお金があっていいよな～。お金、余ってるから、カーポートまで設置できるんだよね～。と、ついひがんでしまう自分がいます。避難している人にはそれなりの苦労 etc. たくさんのつらいことや思いをしたのだと思いますが、避難してきた人をあたたかい目で見ることができません。こういった気持ちの人、どのくらいいるのかな～、もしかして私だけ？なんて思ったりします。
- ・避難している（浜通り）人は東電よりお金をまだもらっているそうで、勤めをしていなくても生活が十分に出来るため、無職でいる人が多い。知人よりの話であるが、「毎晩酒飲み歩き、タクシーでおおいばりで帰る」と聞く。中通りでは線量が高かったにも関わらず、線引きされて、東電、国からの補償はない。
- ・避難してきた人達のために、復興住宅が出来たけど、入居してる人少ないし、何でか、みんな自分達で家建ててるので、やっぱりお金をもらっているから生活するの楽みたいだと思ってしまう。それに、保育所とかも優先されてるってウワサまで流れてる。そのため、共働きしてない人でも入所できてるし、なんか不公平な感じがする。県も国も、避難した人達に金はやったんだから、もう良いんでしょ？って感じがする。たしかにその人達は、金持ちみたいで、学校でも子供の中にはじまんしてる子もいるみたいで、子供の中でも貧乏とか階級つけてる子が出てきている。全てが、震災の影響ではないかもしれませんが、すごく住みにく

い感じも出てきた。

- ・避難者の人達は、税金面で優遇され過ぎて腹が立つ。
- ・補償や対応について、不公平だと強く思います。医療費、介護保険の利用料など…いつまで負担免除されているのかと…いつまでお金をもらい続けるのかと…。中通りは対象ではないので、何ももらえません。お金問題は大きいですね。中通りに避難して、ピカピカの新車に乗って、自由な生活をしている人達はムカつきます。地域によっては避難解除になっています。なのに、その地域に帰らず、郡山市などで生活している。帰れるのに帰らずに、補償だけを求めるのは、間違いではないかと思います。

賠償の対象、範囲の線引きに対する不満

- ・原発事故の被害者は浜通りの方だけではないことをわかってほしい。
- ・私たち家族は3.11の翌年、放射能が低い、同市の新築アパートに引っこしました。そのあと、低いところに引っこした方には3年家賃無料ということで、市役所にいったところ、同市内での引っこしは、対象外といわれ、線引きされてしまいました。本宮→大玉とかだったらよかったそうです。しかし、新築のアパートだし、放射能低いところにわざわざ引っこしたのに、とってもショックでした。
- ・同じ福島県民でも住む所により補償が全く違い、現在は何の補償もない。確実に事故前より線量が高いままなのに、体に害がないからと、そのままになっている。
- ・国や県などの原発事故に対する補償の不公平が大きいと思う。未だに医療費などがかからない人も多く、そういった人はGE医薬品などを使うことを拒否する。補償金もいつまでももらい大きな土地を購入し、大きな家にすんでいるのに…。見ているだけでガッカリする。年金で生活しているお年よりなどの方が、GEに変更したりあまっている薬の調整をしたりするのに、医療費負担がない人は平気で「のこっている分は処分するからいい」とか言う。医療費の窓口負担くらい再開した方がいい。

- ・帰宅困難地域だけでなく、もっとはばひろく見ていただきたい。
- ・自主避難している人にまで、お金とか出す必要はないと前々から思っている。

賠償の継続に不満

- ・原発事故の補償について。いつまで東電は払い続けるのか。もらっていない側からすると、もう十分だろう、と思ってしまう。
- ・仕事柄、相双地区から避難している方とかかわる機会がある。今も医療費がかからず、病院を受診しているのをみると、そろそろ医療費くらいは自己負担でいいのでは…と思ってしまう。
- ・現在も補償金を受けとり医療費も払わずに働かずにいる人達がいる。格差をととても感じている。同じ県民なので、子供達が安心して大人になれる補償が欲しい。
- ・いわきの方よりも福島県中通りの方の人達をもっと支援してほしい。いわき、浪江の人達、いつまでもお金もらいすぎ…。
- ・最近、震災・原発のことでの話題は残念ながら健康の心配や不安よりも、原発近くに住んでいた方々への賠償金についてです。県外へ避難されている方々が、度々いじめや差別的なことで苦しんでいるというニュースには心が痛みますが、わが家の近くへ避難されてきて、新居を構えている方々も多くなり、そのお金の使い方に、同じ県民であっても異議を唱えたい言動を見聞きします。今後原発近くに住んでいたという理由だけで、その方々へ長期に渡る過剰な賠償は必要なく、もっと福島県民全員に行き渡るケアが出来るような対応を各機関へ望みます。

復興費用の使い道に不満

- ・若い世代が絶対に戻らない地域を除染したり、道路を作ったり、無駄なことをやめてほしい、と思います。
- ・お金を浜通りの人たちへばらまくのではなく、子供への補償や体力低下しない為の施設、医療などに使ってほしい。

支援を望む

- ・白血病や甲状腺癌になったときの賠償の制度をしっかりとつくってほしいです。
- ・まだ7年…と感じます。何か変わったでしょうか。変わっていつているのは、中通りの新築住宅の数です。ものすごいきおいで増えています。原発周辺から、ますます遠のくのが現実です。子供達は少人数の小さな学校へ通わせています。その地域では子供の数が一家につき最少で3人です。4人、5人という家族もあります。人数を増やして、家の中も明るいですが、何よりお金がかかります。子供に対しての援助は、本当に足りないと思います。年々、食べ物の値段も上がってきています。家族を支えるには中々大変ですね。
- ・逃げられなかった人への賠償をしてほしい。
- ・子供は宝、将来の日本を担っていく存在なのに、子供への国の補償は足りないと思います。原発事故だけでなく、子供が減ってしまったら、今20～40代が老人となった時、60～80代となった時、支えてくれる20～40代が少ないのでは、日本は成り立ち得ないのではないかと最近思います。日本は後手、後手に回っていると感じます。
- ・何年たっても福島にずっといる人達への(国や県)気持ちは感じません。避難して来た方はつらいと思いますが、その方達のために住宅をたくさん作り、補償もたくさんしているのに、ずっと福島にいる人には何もありませんし、学校も、遊具もそのままですし、子供がのびのび遊べる場所をつくってほしいです。夏休み中も、2ヵ所しかない市民プールのうち長いスベリ台のあるプールは、震災後使えない状態のまま。子供達のたのしみも7年間とまったまま、住宅や、作業員の方にお金をかけるなら、たった一つの楽しみを、こちらにまわすなど、子供達の楽しみをまた復活させてほしいです

その他

- ・震災で避難してきた人達のことで、ママ友達が話題にしているという話

を聞いて、避難してきた人達は、なるべく避難者であることをかくしている。本当のことは言えないと友達から言われた。私は避難者ではないけれど、そんな話を聞くと、心が痛む。誰が悪いということでもないのだと思うが、もともと住んでいる人達と避難してきた人達とは賠償金の違いから、妬みみたいのがでるのかもしれない。避難してきた友達は、うわさにされたということを知って、ママ友の集まりにはもう行かないと言っていた。

9 対応全般

対応全般に関する意見は、「行政の対応に対する不満」、「東電の原発事故対応に対する不満」、「原発事故を踏まえた原発の是非」の3つに分けられる。

(1) 行政の対応に対する不満

事故から7年が経過しても変化の無い行政の対応に対するあきらめや不満の声がある。また、避難解除についての疑問、また風化させようとしているのではないかという不信感がある。

- ・福島市にもどってほしいなら、子供手当を高額にするとか、イオンモールを作るとかしないと無理です。正直、福島市はつまらないので、他へ買い物に行く事ばかりです。交通はしやすいですが、おススメはしません。
- ・原発に頼らない国を目指してほしかったが、逆の方向に行っていることに、政府への怒りを感じます。福島犠牲を、世の中が、なかったことにしよう、もう大丈夫なことにしよう、としているように感じます。
- ・国の対応が良くないので町の対応に期待していきたい。子供達を思う心があるなら、国の対応を見直していただかないとこまる。国の対応は、絶対に支持しません。国会のニュースも見たくない。
- ・東電、国は過去の事としていくのかもしれませんが、福島にすんでいたばかり

にと、自分をせめるしかないのかと。

- ・「甲状腺ガンが出た」が原発事故との因果関係は考えにくいと結論を出されていますが、原発事故で「甲状腺ガンの症状が早く出てしまった」という事は考えられるのではないかと私は思っています。
- ・当事者が普通に生活しているので、そうでない方にとっては考えることもないと思います。生活するという事はそういう事なのだと思います。けれど、国と東電はそれではいけないと考えます。「何をやっているのだろう」と思います。考え続けるべきだと思います。
- ・自主避難の方への補助がうちきられるのは、高齢者、子育て世代などに死ねと言っているように聞こえます。やっと職場である学校の汚染土がほりだされます。それも中間貯蔵施設からその先どうなるのでしょうか。現在市内の公園も何か所かその一時置き場で入れません。いつまでつづくのでしょうか、影響は。
- ・生活は落ちついているが、事故処理は解決していない。にもかかわらず、双葉地域の避難解除を進める国の姿勢には不信感を感じます。
- ・私達、中通りの人達は、津波の影響はなく、建て物の破損もなく、ただ、ただ、原発問題だけで…。東電、国、県、市、もっと放射線被害者の私達に目を向けて！！と言いたいです。他県の人達からも、私達中通りの人達まで、未だにずっと補償を受けているとかんちがいされている方々も多いので、それは違う！！と声を大にして言いたいです。何十年後、福島の子は皆、大丈夫だったと言える… 何十年後、福島に住んでいて良かった… 何十年後、自分達の判断は正しかった… と胸を張って言えるように。
- ・国が帰還や復興に力を注ぎ、まるで、原発事故がなかったかのような、国の姿勢が残念です。
- ・国や東電にはもう少し、真摯に対応してほしいなと思います。なんだか福島県が見捨てられているような心境です。
- ・子供の健康に何らかの問題が生じた時、国はきちんと補償してくれるの

でしょうか？

- ・ 原発事故後、作業（処理）が時間がかかりすぎているように感じます。
県、国への取り組みも、風化してほしくない。
- ・ この度の原発事故は、天災でもあり、人災でもあります。当時の政権運営のまずさが引き起こしたと思っています。当時の政権を断罪すべきです。また福島を過剰に危険視するマスコミ等も反省すべきだと思います。私自身もいろいろ調べたり、勉強しましたが、この地に住み続けても問題はないと思うし、さほど不安は感じていません。むしろ隣国の方が放射線量、甲状腺ガンが多いと聞いてます。前向きに生活していきたいと思っています。
- ・ やはり原子力発電は今後は考えるべきだと思います。前から千年に一度の大きな天災が来ると言われていたのに、あれほどの揺れがあったのにすぐに逃げなかったのか？ 行方不明の話が、TV・新聞に出るたびに心が痛みます。もっと県、市は本格的な避難訓練を実施しておくべきなのではなかったのではないかと残念に思うばかりです。2年後の東京オリンピックは早すぎると思います。まだやるべきでは無いと切に思います。これほど大変な事が目の前に有るのに政治家達のいいかげんさには呆れかえります。こんな小さな国でも、直接被害が及ばない人間には理解出来ないものだとつくづく感じるこの頃です。今の自民党では無理です。何とかしてほしいです。
- ・ 原発事故による風評被害以前の問題で、一部事故がなかったことにするような動きが見受けられます。放射能は、目で見るできません。だからこそ、モニタリングポストの常設は絶対であるべきなのに、それを、なくす動きがあります。お役人が無くすと決定してしまえば、小さな声は、見向きもされません。不安が消えるまでは、どんな方法を使っても開示する情報を広げるべきだと思います。将来になって、“想定外でした”なんてことはあってはならないのです。だからこそ、“データがない” からという理由でなかったことにされるのはもってのほかで

す。どうかどうか声なき声をひろっていただける世の中になることを、願うばかりです。

(2) 東電の原発事故対応に対する不満

東電の原発事故対応に対する怒り、誠意のない事故の対応についての不満の声がある。

- ・7年たつがまだまだ福島原発の事故処理が思ったより進んでない事におどろく。原発事故にからんだ不正な事件がニュースで報じられると悲しくなる。
- ・原発事故の時、避難する事が難しく（仕事とガソリンとお金の問題）この場にいるしかなかったのですが、避難した人たちだけにお金が支払われている今の現状に納得がいきません。立入禁止区域の方々は戻る場所も仕事もなく、賠償金をもらって生活しているのはわかりますが、解除された方々は、戻れるのに戻らず、賠償金をもらうために避難生活を送っているとしか思えません。東電はバカだと思います。避難している人にお金をやるのではなく、解除したその場所に戻った人に対して家を建て直す資金や生活費を出すべきだと思います。「戻れない」のではなく「戻らない」のですから。お金をもらうために。
- ・原発事故による不安で、家の着工を遅らせました。その間に消費税が上がり、資材が高騰し、…などなどにより数百万円、予定より多くかかりました。ADRセンターを通し、賠償請求しているところですが、原発からの屁理屈のような回答書を見てモヤモヤしています。東京電力なんて、なくなってしまえばいいのに… と思っています。
- ・事故の責任を、当時の東京電力のトップの方々に、反省してほしいです。

(3) 原発事故を踏まえた原発の是非

原発事故の被害を経験し、原発の安全性についての不安の声、原発再稼動について否定的な意見が多くみられた。

- ・原発は本当に必要なのか。将来子供達の健康と、安心して過ごす事ができるようにしてほしい
- ・原発が無くなればいいと思っています。
- ・福島原発を一秒でも早く廃炉にしてほしい。近い将来、大地震が起きる可能性があるのに、又、再び原発が壊れて、放射能がもれたり、住めなくなったりするのは、絶対に嫌。まだ安心できる暮らしになっていない。安倍総理が、オリンピックを日本で開催したいがために、「終息宣言」を世界に向けて言ったときは、愕然とした。何1つ解決してないのに…。よくも嘘が言えるなど。まだまだまだまだ安心できる生活になっていないというのに、国民を見捨てて、よく嘘をあんなに簡単につけるなど。だから国がよくなる。国会議員全員、福島県民で仮設に住んでいる人たちと同じように、家族で移住して現場で現状を1年以上体験してほしい！！のん気にやっている場合ではない！7年たってもいかりはおさまらない！！
- ・離れてみて、更に福島はとても良いところであることを実感しています。美味しい果物や野菜、米、美しい花々咲き誇る豊かな故郷。住む人々のあたたかなこと。二度と原発事故をおこさないよう、再始動に反対！遠い地になってしまったけど、福島を愛している。今尚帰れない浜の方達を思うと辛い。
- ・原発、早くどうにかしてほしい。
- ・なぜ福島に原発があるのか。関東で使う電気、なぜ福島に？世界で福島とレッテルをはられたのがくやしい。美しい県だったのに。
- ・国が今も原発によるエネルギーに頼っており、海外にも作る事を進めている事にいきどおりを感じる。一刻も早く原発に頼らない自然エネルギーに転換してほしい。核のゴミ問題等、原発の問題を後回しにしないで真剣に考えてほしい。そしてしっかりと進めて実行してほしい。
- ・とにかく原発のない世の中を願うばかりですが、国はそういう方向ではないことが残念でなりません。

- ・除染はすすんでいても、原発自体はいろいろトラブルや問題が発覚したりして、何もすすんでないのではないかと不安になります。・山でキノコ・たけのこ・山菜などとして、産地直送。地元産の野菜で地産地消などができたはずなのに、事故さえなければ…悲しいですね。
- ・ニュースなどで原発の内容を聞くと聞き入ってしまう。やはり、まだ気になるんだと思う。多分、一生気になると思う。現状は把握していたと思う。
- ・人間は、後始末できないもの（原子力発電所）を何故作って使用しているのか、おろかだなあと思います。
- ・同じ東北地方ですが、福島のこととは仙台も青森もよその出来事という捉え方をされている気がします。福島にいた時は、常に震災＝原発被害という感じでニュースも多かったですが、他の地域は震災＝津波被害と感じます。福島の原発事故があったのに、他の原発をなくそうという動きが弱いのは憤りを感じます。
- ・自然災害が原因とはいえ、あのような原発事故が起きてしまい、今もその地で暮らしている人が大勢いますが、原発再稼動を認めている方々はその事は忘れてしまっているのでしょうか？いくら万全の備えをしても、絶対に大丈夫という事はありません。今度又同じような原発事故が起きたとしたら最初の頃だけ騒ぎ立てられて、しばらくしたら触れられなくなり、私達と同じ思いをすることになるのかと心配になります。この国のトップの方々が正しい判断をしてくださるよう望みます。
- ・国や自治体が他の原発の再稼動を認可するという報道を聞くたびに大丈夫なのかと疑問に思います。また地震がおきたり、原発事故がおきるのではないかと心配でなりません。私は原発のある地域から少し離れた所に住んでいますが、風評被害はまだまだあると思っています。国も県も復興は進んでいると言っていますが、福島の本当の復興は、第1・第2原発が安全に廃炉が終わってからだと私は思っています。
- ・手に負えない（今の人間の技術では）原発は、やめてほしいです。

特徴

対応全般に関する意見は 90 件（2017 年）から 52 件（2018 年）に減少した。「行政の対応に対する不満」は 39 件（2017 年）から 23 件（2018 年）に減少し、「東電の原発事故に対する不満」は 17 件（2017 年）から 8 件（2018 年）に減少した。そして、「原発事故を踏まえた原発の是非」に関する意見が 34 件（2017 年）から 21 件（2018 年）に減少している。7 年の年月が経ち、事故後の生活を経験したからこそ、原発のあり方に疑問を呈す声が強固に残っている事がわかる。

10 健康

(1) 子ども

甲状腺検査の結果や子どもの現在の体調不良を不安に思う声や、精神的な影響、外遊びできなかったことの影響について心配する声があった。また、子どもの将来の心と身体の健康を不安に思う意見や、子どもが将来出産するときに影響はないか不安であるという声があった。

ア 現在

甲状腺検査

- ・上の 10 才の娘は甲状腺検査で初回から嚢胞があることを指摘されており、医療従事者の私から見ると、それ程深刻にならなくても良いと感じるものでも、娘本人が成長した時にどうとらえるか、他県の人達からどう見られるか、根拠のない差別を受けたりしないか、心配な気持ちは消えることはありません。
- ・甲状腺がんの検査も A1 → A2 のままで心配です。震災時は必死でのりこえてきましたが、今になっても放射線に対しての不安は消えず、いまだに線量の高い場所もあり気持ちが落ち着くことはありません。

事故による精神的な影響

- ・毎日、県内のニュースの時間帯の中で、放射線量の数値を見て、安心し

ています。しかし、私も娘も、家族全員が、家が少しでも揺れると、恐怖を感じ、顔の表情がこわばります。地震に対しては、不安感をもって生活しています。震度1であっても、揺れた後「これでおしまい?」「大丈夫?」「また、揺れないかな?」

- ・今現在もささいな音や揺れに過敏になっています。
- ・家にいても、地震の緊急速報メールがきたり、地震速報があると、子供が怖がって、コタツの下に入って「怖かったよう」とすごく怯えた様子でいるのを見ると、やっぱり思い出すのかなと思います。
- ・精神的にだいぶ落ち着いてきた感じはする。ただ最近また地震があり、地震アラームが鳴ったりすると、不安になり、ハラハラする時もある。子供も動揺し、しがみついてしばらく離れない様子もまだ見られる。月日が経過したものの心の奥の傷は消えないと思う。でも前向きに考えられるようになったので、少しは進歩したと思う。
- ・震災当時2歳だったので娘は覚えていないようですが、今も少しの音や振動にもとても敏感なのは、もしかしたら震災の影響もあるのかもしれないと思った。
- ・未だに地震があり、子供がこわがったりするのを見て、かわいそうに思います。
- ・〇〇よりも次女の方が、ゆれ、音に敏感で、地震のメール音を聞くと一番先に避難します。
- ・だいぶ落ちつきましたが、今でも夜間を中心に、停車中の車のエンジンの音がかすかに聞こえるだけで、地震かも…と身をこわばらせることが、子ども共々よくあります。地鳴り（の音）に似てるんですよ。

体調が悪い・体のどこかが痛い

- ・アレルギーが酷く、毎日年中風邪を引いているように鼻が詰まっている。311の影響かどうかは分からないが、そうなのかもしれない。
- ・よく鼻血を出します。それが放射能のせいなのか分かりませんが、周りの子供達の話の聞くと鼻血を出している子が増えています。心配です。

- ・子供が足の痛みなどをうったえると、“何か関係があるのでは”と、思ってしまう事があります。
- ・子供がからだをかゆがります。病院で薬をもらってますがアトピーっぽいようです。私もどちらかというと同じような症状が出ます。口の中にできものができたり、すべてが、結びつくものではないのですが、不安です。子供は無料ですが、大人も無料にしてほしい。なかなか、“いいや〜”とあとまわしにして、行けません。
- ・子供が「のどが痛い」という回数も増えている。医療費は無料ですがその分、仕事している年代（20～50代）が、多く税金払っているわけだし、ぜんぜん生活は、豊かにはならない。
- ・今思えば、震災がきっかけで、子供が不安が強くなったかもしれません。病気とは言いたくないが、きっかけの一つでもあります。当時2才で、その後からです。気分悪さ、不安、のざえ、腹痛、吐き気がでたのは。どうにかしてほしいです。もとにもどしてほしい、返してほしい。

体力低下・外遊びができなかったことの弊害・対策

- ・小さい頃に外遊びができなかった影響は、大きいみたいです。うちの子は肥満ですが、県内には、肥満の子が多いと聞いています。外遊びをする様に言いますが、あまり外に出たがりません。小学生のうちにもう少し外で運動させたいと思っています。
- ・友達の影響を受けて、昨年末から剣道を習い始めた。震災後、外で活発に遊ぶことが少なく、運動不足を心配していたが、これからは体を動かす機会を増やして、健やかに成長してほしい。
- ・子供達は元気に過ごしています。放射能を気にしては何もできないので、スポ少に入りながら体を動かしています。遠征でいわきや南相馬（海沿い）に行かせる時はすごく心配です。行っている時にまた地震がきたら…と思うと怖いです。なので、ほぼ一緒について行きます。スポ少の監督やコーチももしもの時のために子供達のバッグの中には必ず補助食品を入れておく事を強くいわれています

健康である

- ・ 原発事故は大変残念な出来事ではありましたが、7年が過ぎ、「健康面への影響は無かった」と自分や子どもたちの体調を見て、身をもって実感しています。
- ・ 娘は震災のことを一切覚えていません。将来の健康状態について、どんな影響が出るか分かりませんが、今現在は普通の子と変わらない健康な子だと思います。

その他

- ・ 下の子も心配（H22年8月生まれ）震災後、上の子と一緒に下の子も連れて外出する機会があったため。勝手な判断かもしれないが、上の子より小さい、下の子の方が影響がありそうな気がする。
- ・ 問12の子供の健康状態において、健康の影響があると思いたくないので、書けませんでした。
- ・ 子ども体調に変化がないか、常に気になります。小さな地震でも、1Fに異変がないか気になります。

イ 将来

将来の健康不安

- ・ 今回子どもの、のどの腫れが気になり、甲状腺外来を受診すると“4.6mm”すぐに内服開始となりました。半年で体重が0.5kg減少していたことも気になりました。震災、放射能の影響かともとのものなのか誰も何も分かりません。そのことも不安になっています。そして将来子供の健康はどうなっていくのか、福島にいたことは正しかったのか考えてしまいます。誰かに震災、放射能のことは関係ないと断言してもらえた方が楽だと思います。先日受診時、子供が先生に「早く大きくなりたいし、サッカー選手になりたいから、薬の量を増やしてください。」と自分から言っていたのを聞いて、胸が痛みました。
- ・ 一番心配に思っていることは、息子の健康です。今は元気ですが、この

先、原発事故の影響が出る日が来るのか？と考えてしまいます。でも誰にも答えが出せないなので、どうしようもないこととして過ごしている現実があります。・直ちに影響がないにしても、今後子供の健康状態が不安です。

- ・成長していく子供達に原発事故の影響についてどのように話していけば良いか分かりません。身体への悪影響が無いのか一生心配し続けなければいけないのだと思います。
- ・大人になってからの子供達の事が、心配です。福島県出身というだけで、受け入れてもらえないのではないかとという心配もあります。健康面でも、いつ病気になるか心配です。その反面、原発の事は気にせず、元気にのびのび楽しい生活を送ってほしいと思います。
- ・福島の学校に通い、生活していく上では、今となっては原発事故後の将来の影響について、心配ではあるけれど、考えてもどうしようもない事だと思うから最近はあまり考えないようにしています。
- ・やはり心配なのは、将来の子供達の健康です。
- ・震災前の生活にほとんど戻ってきていると感じる。周りの人と震災や事故関連の話をすることもほとんどなくなった。ただ、これからは、身体への影響が出てくるのではないかと、という不安が大きくなっている。
- ・今は心、身体ともに何もなく生活していますが、今後は何らかの影響が出てこないか不安はあります。
- ・とにかく子供の未来が不安です。
- ・今現在、体調、健康面に特別問題が出ているわけではないので、あまり気にはしていませんが、先のことを考えると不安にはなります。周りで、がん患者が増えたりしないだろうか、自分の体調は変わらないだろうか、子供は健康に育っていけるだろうかなど、予測のできない放射線による影響が、一番ネックです。放射線の重大な被害を、国はかくしていないだろうかなどの不安も常にあります。
- ・何年経ってもこども達の健康面の心配、不安は変わらずずっと胸の奥に

あります。

- ・これから数年、数十年先に子供たちにどんな影響が出てしまうのか、でないのかを不安に思います。何も影響が出なければ幸いです、分からないがゆえに心配です。
- ・子供達の将来への不安を抱えながら、毎日、懸命に生きています。
- ・子供の今後が不安!!何もなく大きくなってほしい。あの時外で遊べなかったのが親子共に（私が）くやむ。生活の為に（家をなおした）働かないと…でも子供とも遊ばないと…。
- ・小さな子どもたちのことを考えると、将来どうなっているのかな？（身体的なこと、健康のこと、原発のこと、風評被害など）と、漠然と心配してしまうことがあります。
- ・子どもの将来を考えると、差別や健康の影響など心配でならない。
- ・見えない放射能相手なので、今後、こども達の体にどのように影響してくるのがやはりやはり心配です。何事もないことを祈るばかりです。前例がないだけに、“人体実験されている”なんてことを言う人がいますが、本当にそうなのかも一と怒りも…。この不安をだれにぶつけていいのか何もなければいいのです。それだけです。
- ・今後、健康面でどうなるのか…ほんの少しの不安はあります。ガンになりやすいなど、何かしらのリスクはあるかもしれません。それ以外は普通の生活です。今後が分からない…だれでも感じる不安だと思いますが、福島で生きる者としては、今後もその不安はずっとつきまとうものなのかもしれません。10年、20年、30年…子供達が大人になってずっと健康で生活できるかどうか…今はそれが一番気になっています。だれか、今後どういうリスクがあるかを教えてほしい…。それが本音かな？
- ・生活は原発事故前とあまり変わらなくなったような気がします。ただ子供達の将来の健康状態や住んでいる地域の放射能についても全く不安ではないと言えそうになります。

子どもが出産することに関する不安

- ・事故直後にかかえていた、子供たちへの健康被害（甲状腺のガン、染色体の異常など）は、いつか出てしまうのでは…と考え、良く不安になっていましたが、7年経ち、今のところ、何もなく、少しホッとしています。チェルノブイリの甲状腺ガン発症のピークが、4年ということもあり、ここまでくれば、もう大丈夫かなあとどこかで思っています。ただ、どこか不安をぬぐいきれないでいるのは、もし、この子たちが結婚をし、その子供が生まれた時に、何か、病気で産まれてこないか…と時々考えてしまいます。チェルノブイリの事故で次の世代に産まれた子供たちは、80%の確率で、生まれつき、疾患があるそうです。そう考えると、私たちの不安は、死ぬまでなくなるのかもしれないかも知れません。
- ・現在、私も子供も体に異常をきたしていませんが、将来のことを考えると、漠然とした不安はあります。国がどの程度まで責任をもって保障してくれるのか？子供が結婚できる年になった時、福島出身ということで差別、破談にならないか、また、赤ちゃんへの影響などいろいろ考えることがあります。
- ・自分のことは何とも思いませんが、子供たちのこれからの健康と風評被害だけがただただ心配です。（他県に出た時、結婚、出産に影響はないでしょうか？）

子どもの将来の損害に対する賠償・保障

- ・今後、子ども達に健康被害が出たとしても、きちんと対応してもらえるのか？もう過去のことだからと、片付けられてしまうのか？このような不安は、常にもって生活しています。震災前と、ほとんど変わらない生活をしている今だからこそ、先のことが不安です。
- ・将来（子ども）が色々な病気が出てこないか不安。その時の補償？
- ・低線量被爆が続くことで、将来、子どもたちの健康にどのような影響があるのか心配です。何かしら影響はあっても、国は原発事故との因果関係は認めないだろうというあきらめの気持ちもあります。原発事故後に

生まれた子どもの健康状態が気になります。

- ・心のどこかでは、子供たちが成長した時にいつか、なんらかの影響が出るのではないかと不安に感じている状況です。何かあった時に、国や県、市町村などがきちんとサポートしてくれるのか？というのも疑問に思ったりもしています。本当に不安なことが消えて安心して暮らしていけるのは何年後になるのか。子供たちが健康に成長してくれることを祈るばかりです。

その他

- ・子供の将来の健康は気になりますが（心配で）、今、生活する上で、少しでも楽しくしていけたらと思います。気にしすぎてしまうと、健康にも良くない気がするので、なるべく伸び伸びとすごせる様にさせたいと思っています。
- ・意識して、放射線について問題意識を持ち生活面で気をつけている人と接する機会を持たないといけないのかなあと感じます。でも、いろいろ考えて生活することと、何も考えずに生活すること、どちらがよいのだろう…。放射線の人体への影響がわからないので、その答えもわかりません。でも、子どもたちが大きくなったころ後悔することのないよう、もう少しまた考える生活にもどしてみたいと思います。
- ・普段は原発事故の事は忘れてるし、子供達が不安を訴えてくるような事も一度もありません。でも、ふとした時に子どもの健康や将来について不安になり、このままでいいのかな、正しいのかな、後悔することになったら嫌だから、今できることをしておかなければならないのでは、とあせるような気持ちになります。

(2) 親

地震が起こったり、緊急地震速報が流れたりすると、震えが止まらなくなるなど、精神面での不調を訴える親が多い。また、将来の健康を危惧する意見があった。

ア 現在

精神面の不調

- ・あまり思い出さなくなってきましたが、地震警報のあの音やテレビで大震災のことをとりあげられていたりすると、今でもすぐ思い出し、動悸が激しくなったり、涙が出たりする。でも基本元気です。
- ・震災の時の話をしたり、聞いたり、映像で見たり…は、感情がこみ上げてきて、未だに涙が出てきます。家が流されたとか、身近な人が亡くなった、などの直接的な大きな被害を受けたわけではないのに…と思ってしまいます。
- ・7年たった今もあのときの映像をみると、フラッシュバックしてきて、涙が止まらなくなったり、ふるえたりすることもあります。あの日の教訓を生かして、今の自分は何ができるかなと考えることは多いですが、行動には移さず終了。
- ・最近、誤報となりましたが、エリアメールの音を聞いた時、とても不安な気持ちになりました。あの震災以来、エリアメールの音は恐怖でしかありません。
- ・普段の生活では震災の影響を受けているとはあまり感じなかった。しかしたまにスマホの地震速報の音を聞くと、未だに足が震えて止まらなくなるので、あの時の恐怖は体に染み付いているのだと感じる。
- ・数ヶ月前緊急地震速報がありました。体中不安な思いで一瞬動けなくなりました。あの時の恐怖は体が忘れないと改めて感じました。
- ・今でも地震がくると動悸が激しくなる。
- ・小さい地震でもドキドキすることがあり、親子ともども、あの時の大地震はなかなか忘れることができません。しかし、このピンチがあり、普通の事、日常のささいな事でも感謝することができるようになりました。
- ・震災の映像等を見たりすると、今でも涙が出てきてしまいます。何かと涙もろくなった状態が戻りません。

体調が悪い・病気になった

- ・私の頭痛も酷く、日常生活に多大に影響が出ているので、311の影響なのかもしれない。今は新たな土地で、毎日をすごすことに精一杯なので振り返ったりはしていない。そのことで不安定になったりはしていない。
- ・昨年の9月に私（母）が乳癌を宣告され、現在闘病中です。病気になってしまったのは、誰のせいでもないと思う反面、原発事故後直後、水を求めて自転車（車はガソリンが無く動きませんでした）で走りまわったり、すぐに避難せず衛生状況の悪い中（水道は止まっていたので）食事を作り、食べたりする生活をつづけてしまったから、癌という病気になってしまったのでは…と思っています。もちろん当時のストレスは相当なものでした。又、週末避難を約1年半つづけましたが、その時の疲労・心労は今でも思い出したくありません。
- ・2年前に乳ガンになった時、ストレスが一番良くないと言われました。震災がなければ…と思ってしまう自分がいます。

イ 将来

将来の健康不安

- ・現在住んでいる地域では、だいたい事故前の生活と変わらない状態（人も土地も）になってきました。ただ、ニュースや他県の方の意見や認識が、当時とあまりかわっていない印象を受ける時があります…。その時はショックを受けることも多いし、改めて将来の家族の健康の心配を深く感じ考えさせられます。
- ・体の心配は娘達ですが、心の心配は、年々年を取っていく自分なのかもしれません。福島の人、うつになる人、これから多くなっていくと思いますよ。
- ・不安は消えることはありませんが、日常生活は支障なく過ごしている状況です。正直なところ、今は、仕事と育児の両立で精一杯で、放射能を心配している余裕がないです。健康被害がない限りは、このままの生活

を、継続していくのだと思います。この先もずっと、家族全員が、健康で、元気に過ごしていけるよう、願うばかりです。

- ・今は健康ですが、将来本当に何事もないか不安になることがある。何事においても 100%はないと思いますが、誰も予期せぬことがあるか何事もないか誰も知らない子供達の未来が幸せであってほしい。

特徴

「現在」の親と子の健康に関する意見は 80 件 (2017 年) から 57 件 (2018 年) に減少し、「将来」の親と子の健康に関する意見は 124 件 (2017 年) から 82 件 (2018 年) に減少している。子どもの健康に関しては、甲状腺検査の結果から不安に思う意見が増加し、親の健康に関しては、地震が起けると不安になるなど精神的な影響が増えている。また、子どもの健康被害や将来の生活に対し、賠償・補償が適切に実施されることを望む意見が多い。

11 事故後の思い

(1) 復興への思い

復興へのさまざまな思いがあり、不安が完全になくなってはいないものの、前向きに過ごしたいというような意見が多くみられた。

なかなか復興しない

- ・仕事上で浜通り方面へ行くことがあり、人の気配のない地域をみると、復興のむずかしさを感じる。同じ福島県でも、自分の住むエリアと全く異なるので、関東や関西といった福島県から離れた地域の人にとってはもっとだろう。浜通りが早くなんとかなってほしいなと思う。(元に戻るは無理だと思う)
- ・県中の除染もほぼ終わり、浜通り (海側の地域) の除染や、復興は、まだ続いています。まだ終わっていない、ということを忘れないように、と思う日々です。

- ・1日でも早く福島県が元気になってほしい。
- ・いつになったら、元に戻るんだろう？！
- ・地元産の野菜を食べたりと、県外に住んでいる人達と変わらない生活になってきているのかな？と思う反面、除染廃棄物仮置場を見ると、まだまだ普通の生活に戻るまで時間がかかるのだなあと思しくもなります。県内に住んでいる私たちが、忘れてきているのだから、県外に住む方が忘れてきているのも仕方ないのかな…と思う時もあります。
- ・今現在もまだ、道路などの除染作業などが行われ、まだまだ時間がかかるなあ実感しています。子供たちは、特に気にする様子はなく、日常生活の一部?!という感じになっています。その様な作業風景を見ることのない、日常の生活に早くなることを願います。
- ・やっと7年かと思っています。放射能はやく消えないかな… 私よりもっと心をいためた人はこれからどんなふうやっていくのか考えると、今でも心がいっぱいになります。去年、5月の初旬ですが、相馬の松川浦（ちがう…港の方です。）に行って来ました。きれいになっていました。昔のように、釣りやバーベキュー客で賑わっていました♡ 亡くなった同級生にやっと手を合わせて来ました。慰霊碑と資料館ができており、亡くなった人の名前や、震災直前からこれまでの事が色々と記録されています。1歩、進めた気がしました。

復興してきている

- ・月日が経つのは早いですが、あの時の恐怖は今も心に残る。復興はすすみ、元の生活に戻る地域も沢山出てきたが、原発をどうするか？どうなっていくのか？これから生まれてくる子供たちにも考えてもらいたいと放射線に苦しんだ人の一人として私は思う。
- ・子供の成長を感じつつも、TVで復興の様子を見てよくなっているんだなと感じます。避難している人が町に戻ったり、また、たくさん大変な問題が出てくることでしょう…。でも、一つ一つ乗り越えていけることを祈っています。

前向きに進んでいきたい

- ・地域の生活がより良くなる様に願っています。子供達の将来も不安のない福島であってほしいと思います。
- ・子どもの将来を考えると、不安がまったくないというのはウソであるが、今の生活がたのしく、充実したものとなるためには前向きにすすんでいかなければならないと思う。ただ、風化させてはならない現状がある。私自身も同じ仕事をしている仲間が、大震災後考えられない状況にあることを定期的なきき、家庭もバラバラ、残業も考えられないくらいの時間があり、命をかけて仕事をしている。同じ福島県民として、同じ日本人として、忘れないために、自分にできることを考えたい。

復興という言葉に固執しないようにしたい

- ・被災したコトは忘れないようにしつつ、被災、復興…と固執・特別視しなくていい段階に来ていると思います。
- ・私は、仕事の半分以上が復興に関連したもので、予算もまだつくため、仕事量が多いままであり、そのことがストレスで、早く震災の記憶が風化してほしいと願ってしまいます。目に見えない形で、様々な産業が苦しんでいますが、一方で普通の生活を送ることの足を引っ張り、災害を受けたのにいつまでも復興という名の元に苦しみ続ける、そんな奇妙な状態にあると思います。

その他

- ・今年の3月で仮設住宅が閉じられる所が多く、（中には、冬前に集約された所もあり）多くの人たちが次の選択をせまられました。復興住宅、家を建てる、引越す、など。昨年度（9月）生徒たちを連れて、浪江町を訪問しました。震災後初という生徒も半数近くいました。復興は少しずつ進み、役場も戻り、新しい小中学校も4月から開校する予定ですが、生活するには買物すらままならない現状がありました。浪江町で働く人たちも夜になるとまっくらで、本当にさびしいとの声があがりました。一方では、年配の方々中心に戻って生活を始める方々もあり、行動を起

こしている方もいます。就職、進学を機に福島を離れる生徒がでてきましたが、浪江出身と言うのには時間がかかるようです。心開けば言いたいけれど…というところでしょうか。ちょうど、大学卒業するくらいの子たちは、ふるさとのために何かしたいという気持ちが強いようです。今の中学生は、今のくらしの方が長くなりつつあります。複雑ですね。

- ・以前に比べると、福島市はだいぶ落ち着いてきたようです。食べ物に関しても、放射性物質が検出されることは少なくなり、そろそろ地元の物でも大丈夫かと思っています。最近で聞く話は、かえって検出検査をしていない近隣の県の方が、食品によっては怪しいことがあるとか、震災より7年たち色々と変化が（もとの状態に戻る）感じられます。ただ、今気になることは、震災復興の名ではじまった事業の今後の先行きと、打ち切られるだろう助成金などで、各個人の生活や環境に影響がまた違った感じにでるのではないかと心配しています。

(2) 子どもたちへの思い

子どもへの思いに関する意見は、ア「子どもに伝えていきたい」、イ「子どもへの希望」の2つに分けられる。

ア 子どもたちへ伝えていきたい

子どもたちへ震災のことを伝えていきたいという意見がみられた

家族で話し合う

- ・子供達も大きくなってきたので地震があるとすぐに身を守る行動をとるようになりました。原発についても理解できるくらいの年齢になり、時々話すことがあります。今後は子供達がしっかり理解し、自分のこれからについて考えていけるよう、家族で話していきたいと思っています。
- ・震災や原発事故が、記憶から薄れているのを感じます。忘れてはいけない事なので、この機会に家族で話し合ってみようと思います。
- ・子供達から、当時の様子を聞かれ（当日～その後の生活・避難など）話

す事もあります。「なぜ避難先（秋田の祖父母宅）から戻ったのか」と聞かれ、答え、私達にとって良い選択だったのかを家族で話し合った事もありました。私はこれで良かったと思っています。今はこれで良いです。ただ、子供達が大きくなって県外へ出た時。結婚する時。子供を授かった時。皆が受け入れてくれますように。「福島で生まれ育った事」が人生の壁となりませんように。それだけが不安であり願いです。本当にたくさんの方々が震災・原発・風評・復興に向けて活動していただいてありがたいです。それに答えるべく、一市民として私は子供達を元気いっぱい育てたいと思います。

- ・子どもも小学校中学年になり、いろいろとわかってきたので、また大きな地震がきて、原発に何かあったら、父と母は住民のための仕事があって一緒に逃げられないので、祖父母と一緒に先に逃げなさい、いつかはちゃんと会えるはずだから…と言い聞かせてあります。少なくとも、子どもたちが成人するまでは、起きてほしくはないですが…。

震災のことをきちんと伝えたい

- ・立ち直ろうとがむしゃらに走ってきましたが、その時に色んなものを忘れてきてしまったような気がします。子供がいて、絶望的でしたが、それでも日々は過ぎていき、あっという間なような…。震災の年に産まれた子が今年で小学1年生になります。学校も通常になり、普段の生活を送っていますが、震災で亡くなった方などのことを含めて子供にきちんと教えていきたいです。
- ・震災当時、生後5ヶ月だった娘（長女）ももう一年生になりました。当時のことは何も知らないのでテレビの映像をみせて教えています。
- ・震災の時、事故が起きた時、2歳の誕生日でした。もうすぐ9歳、同じ学年の子たちは10歳になります。小学4年生です。風化は感じます。私自身もそうなりつつあります。ですが忘れたことはありません。いつも起きたことあったこと忘れたことはありません。これからも忘れません。ここに住み生きていくということは不安もありますが…そのことは

忘れずにいるということなのではないかと最近感じています。そして子どもにも何があったのか、このアンケートを続けること、答えることの意味を、教えてあげたいと思っています。

- ・月命日がくるとTVで放送したり、新聞に地震のことがのるたびに、思い出します。下の子は、2011年うまれで、「お腹の中にいたんだよ」とそのたびに地震のことを話しています。地震のことはよく話をするけれど、下の子には原発事故のことは、話題にしたことはないような～直接にはないですね！上の子（このアンケートの子）は、まだ3才だったので、あまり記憶にはないようです。私が話をするから「そうか」っていうかんじです。
- ・震災・原発事故を身近におきた天災+人災として、しっかりと伝えることが親の役目と思っています。願いは原発ゼロ、そしてフクシマを忘れないでほしいです。日本中の皆さんへのお願いです。
- ・震災の時ちょうど妊娠していて、その子もう4月から1年生になります。この子はお腹にいたので、震災のことを知りません。けれど、おそろしいことがあったと、沢山の命が失われたことを、もう少し大きくなったら話をしたいと思っています。思い出すと辛いことですが、決して忘れてはいけないことだと思います。あのような悲劇が二度と起こらないでほしいと心から祈っています。

どう伝えるべきか、伝えることを少し悩む

- ・子どもたちはすっかり地震のことは忘れて（わからない）ので、テレビなどで震災のことをやっていると教えたりしますが、あまり考えていないようです。少しでも知ってもらいたいたのですが、どうしたらいいのかな？と考えてしまいます。
- ・テレビで3月11日頃になると東日本大震災や原発事故について流れるので、「あの頃は、こんな事があって大変だったよね。」などと家族で話しをする位で、普段の生活の中では風化していると思います。子供達も幼稚園前や生まれてすぐで、覚えていない様です。伝えていかなければ

いけない事、沢山有りますが、同時に辛かった事がとても多く、正直、親として思い出したくない部分も有りますので、3月11日頃にテレビを拝見して、なつかしく思う位がちょうど良いのかなとも思ったりします。二度と、あの様な事は、起こってほしくはないです。

- ・震災を経験はしたけれども、周りの大人達が落ち着いて冷静にしていた雰囲気の中で生活していた事が、最最後に重要だったと思います。忘れてはならない事ですが、子供達にはムリに思い出させなくても良い時期でもあると考えています。

イ 子どもたちへの希望

- ・震災や原発事故の事、風化させてはいけないと聞きますが、いつまでも暗い気持ちでいても前には進めないで、ポジティブに子育てを楽しんでいきたいと思います。子供達もそんな姿を見てくれて将来万が一何か体調に変化があったとしても、前向きにとらえ進んでくれる人になってほしいと思います。
- ・子ども達が成長したときに自分の状況を説明できるようになってほしいという願いは変わりませんが、私自身が十分に説明しきれていないことを考えると、子ども達にとっても高度なことを求めていると思います。でも、子ども達が自分の人生を前向きに捉え、次の時代を担う人材として力強く歩んで行くためには必要なことだと思いますので、それらの力をつけることができるよう育んでいきたいと思います。
- ・当時2才5ヶ月だった本人も小学校3年生(9才)になり、東日本大震災や原発事故についての情報や知識を得る機会が増えてきた。だが、当時のことは覚えていないため、話を聞いてもどこかで他人事の部分もあるように思える。学校での放射線教育も、年に1回あるかないか程度で、スケールの大きい話のため実生活とのつながりがうすくピンときにくいところが多い様子。震災について、原発事故について、本人なりにこれからどのように受けとめ、理解し成長していくのかはわからないが、「福

島の子」として成長してほしい。そして福島の人として地域に根ざした貢献のできる存在であってほしいと願っている。

- ・原発事故は風化していきますが、私達の生活のまわりには、まだまだ放射能物質はあります。海にも毎日流れています。子供達には、このことを忘れることのないよう伝えて、どうしたらいいか考えられるような大人に成長してほしいです。

(3) 行政に望むこと

外遊びが制限されていた子どもに対してのサポートや、子どもが将来放射能の影響を受けた時の補償制度を確立してほしいといった行政に望む意見が多数あった。

健康面でのケア・補償について

- ・これからの子供達の体のケアを、国、県等がしっかりと保障し、安心して成長できる環境をしっかりと作ってほしいと切に願います。
- ・放射線の処理（汚染物の処理など）、住民の健康管理はずっと続けてほしいです。
- ・地元で生活し、原発、放射能という言葉が聞こえなくなりつつありますが、まだまだだと思えます。これからも子供たちの身体の状態を国、地域で、みつづけてもらいたいです。
- ・賠償の話が目立ちがちですが、未来に向けて、放射能による影響が出たときの補償（子どもたちへの）がきちんと確立されればと願います。
- ・将来の体の不安はありますが、今は、毎日忙しく楽しく過ごしています。子供だけでも、何かあった時の補償をしっかりしてほしいと思います。

助成金について

- ・18才までの医療費無料化はありがたいです。さらに、保育園の無料化を希望します。
- ・子供たちの放射能の影響が20才をすぎてから出た場合の医療費など手厚くしてほしい。未成年の場合だけでなく、その後も、見てほしい。

外遊びが制限されていた子どもへのサポート

- ・今でも休みを利用して、子ども達を保養させてくれようと力をつくしてくださっている方々がいらっしゃいます。他県にいなながらも、自分の事のように心配し、思い、考えている方々の存在を知るたびに、元気をもらって、子ども達も勇ましくなって、現在まで成長してこられた所もあると思います。国から出される税金が、しっかりと生かされて必要な所に使ってほしいと思います。国民の大切なお金であり、これから子ども達も背負っていくこととして、しっかりと活用してほしいと思います。
- ・外で遊ぶ習慣のある子どもは、ほとんどいない。震災は終わっても、習慣が残っているため、県で一位の肥満度になっているのだと思う。「肥満改善」のプロジェクトや支援を行ってほしい。
- ・前のように外で遊んでいる子供があまりいない。運動不足で体力↓。室内で遊べるような施設をたくさん作ってほしい。
- ・私自身も周りから神経質に見られているかもしれないが、子ども以上に、保護者の方が神経質になりすぎて、控えめな子どもが増えてきているように思います。市町村それぞれが、学校、保健所単位で、どこか低い線量地へ出掛け、運動する機会を増やしていければ良いのかな、と思っています（有料でも構わない）。

情報を知りたい・知らせて欲しい

- ・もう1度放射線量の細やかな測定を実施し、当時と比べてみたい。
- ・検査の結果、「甲状腺がん」と診断された方もいるようですが、震災の前後で、どのくらい、がんの子どもたちが増えたのかや、原発事故との因果関係を詳しく公表してほしいと思います。
- ・汚染の情報だけではなく、除染もされ、福島に住んでいても安心、安全だ、という情報提供がもっとされる事を願っている。

その他

- ・家ですぐに分かるような線量計が気軽に手に入るといいな。
- ・今も原発で廃炉？に向け、とにかく働いている方々にがんばってもらい

たいし、そんな人たちにも、国はしっかり補償を！と思う。

- ・ヨーロッパの様に、諸外国のように、子供への教育、健康に関する、国の対応、法律などで充実させてほしいものです。勿論、原発事故に関する対応もこれ以上後手に回してほしくない。
- ・国が目をそらさず対応し続けてくれる事を願います。
- ・早く処分場を整備して、かたづけてほしいと思う。
- ・福島になかなか企業や店が来ないのはやはり原発の影響だと思います。もっと発展するよう政策をとってほしいです。
- ・時間と、今までが大丈夫だったからとの理由で、食品の検査をしない方向で検討されているが、大丈夫だという根拠がなくなってしまうので、ずっと続けてほしいと思う。(生きている限り)
- ・何もしないままの福島、皆あきらめています。のぞみも、もうしない方が強いですね。生きていくためにそのことばかり考えて生きてはいけませんから。

(4) 不安はなくなった・精神的に安定

不安はなくなった、精神的に安定した、という意見があった。

- ・震災直後は、毎日不安でしたが、今では、ほとんど不安なく過ごせるようになりました。健康で毎日を送れることに感謝しています。
- ・あまり気にすることはなくなってきました。
- ・震災の時の話は時々でるが、放射能の話はしなくなってきたので、日々の忙しさから不安は消えつつあります。
- ・あっという間に7年がたつのかと思うと、早いなあ〜と！子どもたちも小さかったけどそれぞれ小学生になり、無事なにごともなく生活してすごせていることに、感謝しています。これからも家族みな元気にすごしていきたいと思います。でも震災のことは忘れたようでちょっとは心の中にあるので、みんなでたすけあいながら、これからも伝えていければと…。

- ・ 普段の生活の中では、日常のあわただしさと、改めて震災の事を考える事はほとんどなくなった。心配事や不自由な面もほとんどなくなったように思う。
- ・ 離れている事もあり、もう終わった事と思い、何もかんじませんが、3.11 が近づくと、やはり思い出したりします。
- ・ ほとんど話題することはありません。3/11 には毎年みんなで話をするという感じになっています。(テレビで何かあったら話題にはなりますが)
- ・ 震災の事はあまり思い出さない。今の生活にも満足している。自分の仕事も忙しく、休みには子供の習い事や共通の趣味のスポーツをしている(室内)。金銭面では、収入は多くないが、支出を減らして対応している。もう少し貯金したいとは思っている。
- ・ 家や職場、近所でも震災、原発事故の話題が出ることは、ほとんどありません。忘れてしまったというより、普通の生活にすっかり戻ったという感じです。(未だ避難されている方には申し訳ありませんが。)
- ・ 今のところ子供も順調に成長してくれて嬉しく思っております。
- ・ 震災についてはだいぶ風化し、普通の生活を送っています。周りの方も新しく家を建てたりと落ち着いてきていると思います。農産物の検査必要であると思っていますが、負担が大きいのも確かです。元通りにはなくても、良い方向へ進んでいく事を願います。
- ・ 穏やかにくらせている。3.11 を引きずることはない。
- ・ 生活はおちついてできています。とくに不安もありません。
- ・ あっという間に月日が過ぎ、東日本大震災から7年も経つんだなあ、とつくづく感じております。子供の成長も早いものです。今となっては何もなかったかのような感じがします。また大きな震災がないことを願いながら生活できたらいいなあ、と思っております。
- ・ 色々な事を気にせずに良くなっている感があります。
- ・ 特に気にしていない(原発のこと)。放射能も、だいぶ少なくなった。

これからも、福島で、元気に過ごしたいと思う。

12 2018年の母親たちの声に関する総評

(1) 各項目の回答数

下記に示す分類項目の回答数は絶対数ではなく、あくまでも読み手の主観によって数えられた数字である。また、項目間で重複して数えているものもある。2016年と2017年の間の「変化」を捉えるために参考までに回答数を示している。

		2016年	2017年	2018年
1	生活拠点	259	126	83
	(1) 避難関係	100	68	26
	ア 避難継続中	38	16	14
	イ 避難したいが戻ってきた	8	8	5
	ウ 避難したいができない	23	18	6
	エ 避難しない	31	26	1
	(2) 保養関係	30	13	13
	ア 保養プログラムの拡充を望む	18	8	7
	イ 保養に関する情報を得たい	2	1	1
	ウ 保養に満足した	10	4	5
	(3) 除染関係	129	45	44
	ア 除染にある程度満足している	21	9	13
	イ (実施の有無にかかわらず) 除染に不満がある、除染の効果が疑問がある	90	33	24
	ウ 除染を望む	18	3	7
2	食生活	62	39	36
	(1) 地元産の食材や水道水はできるだけ使わない	31	18	15
	(2) 地元産の食材や水道水を使わざるを得ない、使っている	22	18	18
	(3) 学校（保育園）給食に対する不満	9	3	3

		2016 年	2017 年	2018 年
3	家計負担増加	40	18	8
	(1) 他県産の食材・水の購入費用	9	4	4
	(2) 外遊びの代わり	9	3	2
	(3) その他	22	11	2
4	子育て	106	54	58
	(1) 放射能対応（行動）	40	8	19
	(2) 放射能対応	60	45	38
	ア 子どもの検査	44	35	32
	イ 積算計（ガラスバッジ）	16	10	6
	(3) 母親の妊娠、出産	6	1	1
5	人間関係	74	172	70
	(1) 家族・近所・知人	28	19	14
	(2) 外部（いじめ・差別）	46	153	56
6	情報	241	159	134
	(1) 情報不信	51	37	28
	(2) 風化	168	108	90
	(3) 風評（土地・食べ物）	22	14	16
7	賠償・補償	102	76	63
8	対応全般	123	90	53
	(1) 行政の対応に対する不満	71	39	24
	(2) 東電の原発事故対応に対する不満	24	17	8
	(3) 原発事故を踏まえた原発の是非	28	34	21
9	健康	198	204	139
	(1) 現在	53	80	57
	ア 子ども	31	41	32
	イ 親	22	39	25
	(2) 将来	145	124	82
	ア 子ども	128	109	74
	イ 親	17	15	8
10	事故後の思い			86
	(1) 復興への思い			18
	(2) 子ども達への思い			20
	ア 子ども達へ伝えていきたい			14
	イ 子ども達への希望			6
	(3) 行政に望むこと			26
	(4) 不安はなくなった			22

(2) 声の変化：2017年調査から2018年調査への全体的な変化

原発事故から、まもなく7年になろうとする2018年1月調査の自由回答欄に目立った声は「子どもの健康不安」である。今は健康であっても、将来は健康かどうかかわからないという不安、健康上の問題があった場合に、補償はあるのかという不安である。次に多いのが原発事故の風化を感じるという声であり、三番目に多いのが外部からのいじめや差別への不安である。

(3) アンケートからみる原発事故後の生活変化

原発事故後の生活変化には5つの傾向が確認できる。1つめは、事故後7年が経過しても約6割の人が「あてはまる」と回答している項目（「補償をめぐる不公平感」「放射能の情報に関する不安」）であり、昨年に比べて増加している。2つめは、ゆるやかな減少傾向にありながらも約4割から半数近くの方が「あてはまる」と回答している項目（「健康影響への不安」「経済的負担感」「保養への意欲」「子育てへの不安」）である。3つめは、「あてはまる」が急激に減少し、その後、横ばいとなっている項目（「地元産の食材を使用しない」「洗濯物の外干しをしない」「避難願望」）である。4つめは、事故直後から該当者が少ないながらも、一定の割合で推移している項目（「放射能への対処をめぐって配偶者、両親、周囲の人との認識のずれ」）である。5つめは、「いじめ・差別への不安」は、一昨年までは上記の「2つめ」の傾向に該当していたが、昨年の福島からの避難者へのいじめ報道の影響で急増し、今年は横ばいとなっている。

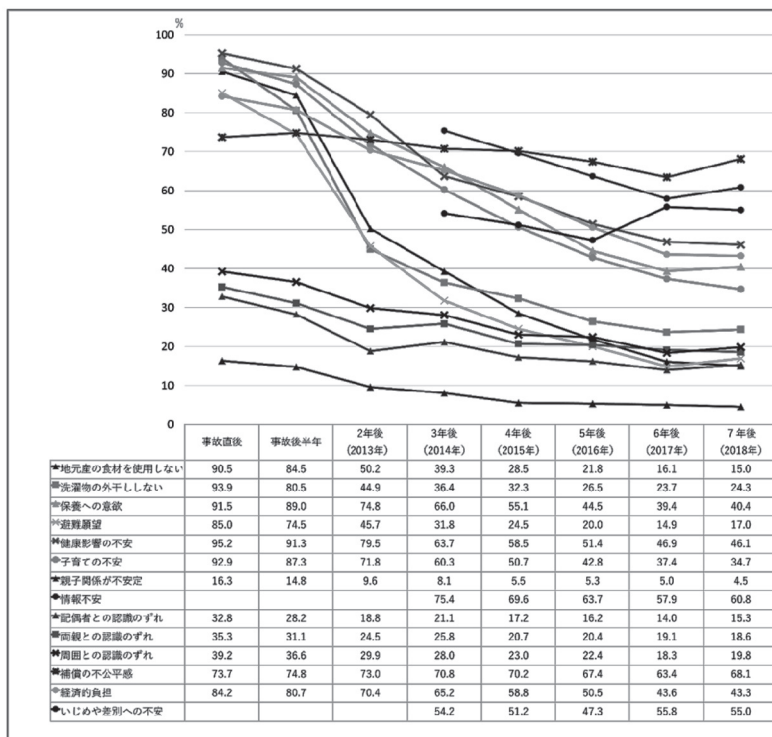


図 1 原発事故後の生活変化*「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」の合計割合（％）

「外遊び」は1時間を超えて遊ぶ割合が初めて減少した。これは子どもが小3になり、遊び方の変化と習い事等に費やす時間が増加したのがその原因と考えられる。

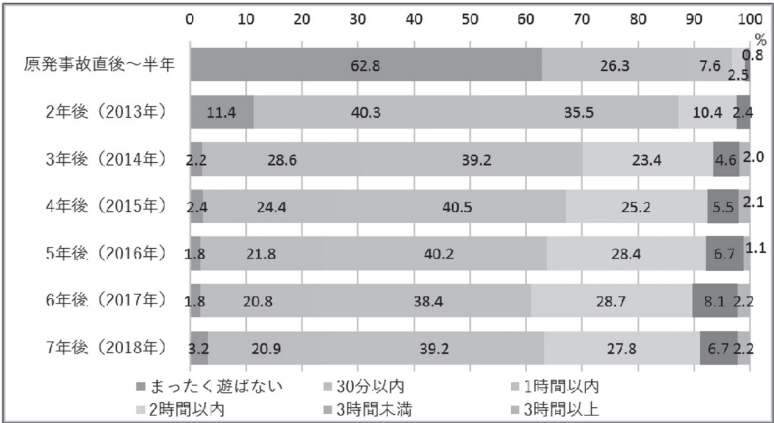


図 2 子どもの外遊び時間

「テレビ・インターネット」をみて過ごす時間は、昨年同様、約 8 割が一日に平均して 1 時間を超えていることがわかった。「3 時間以上」の長時間視聴する子どもが若干増加しているようだ。

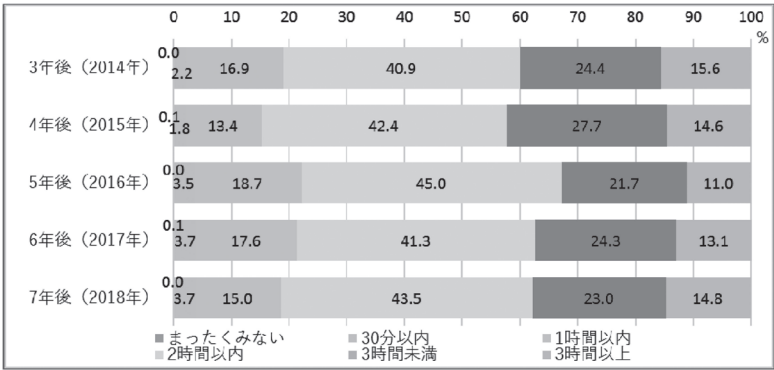


図 3 テレビ・インターネットの時間

最後に、自由回答欄に記入した人の「子どもからみた続柄」、「回答者が母親の場合」の年齢層と居住地の内訳を示した(2018 年 5 月末時点)。なお、「調査回答者」とはアンケート調査に回答した人を指す。

〔続柄〕

	第 1 回調査 (2013 年)			第 2 回調査 (2014 年)			第 3 回調査 (2015 年)			第 4 回調査 (2016 年)			第 5 回調査 (2017 年)			第 6 回調査 (2018 年)		
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
総柄																		
母	1190	2585	46.03	692	1528	45.29	705	1138	61.95	581	968	60.02	528	868	60.83	426	781	54.55
父	11	33	33.33				36	65	55.38	27	49	55.10	19	41	46.34	19	43	44.19
祖父	0	1	0.00	22	71	30.99	1	1	100.00	1	1	100.00	1	1	100.00	1	1	100.00
里親	1	1	100.0	1	1	100.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00
祖母	1	7	14.29	3	6	50.00	4	5	80.00	3	3	100.00	1	2	50.00	2	3	66.67
曾祖母	0	1	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00	0	0	0.00
全体	1203	2628	45.78	718	1606	44.71	746	1208	61.75	612	1021	59.94	549	912	60.2	448	828	54.11

(回答者が母親：年齢層別内訳)

年齢層	第1回調査 (2013年) ：2585人			第2回調査 (2014年) ：1528人			第3回調査 (2015年) ：1138人			第4回調査 (2016年) ：968人			第5回調査 (2017年) ：868人			第6回調査 (2018年) ：781人		
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
20代	161	462	34.85	55	158	34.81	29	77	37.66	16	41	39.02	8	25	32.00	0	8	0.00
30・34歳	411	919	44.72	207	505	40.99	189	311	60.77	119	216	55.09	75	153	49.02	34	100	34.00
35・39歳	432	852	50.70	260	543	47.88	281	420	66.90	225	366	61.48	195	319	61.13	150	275	54.55
40代	178	340	52.35	165	311	53.05	204	324	62.96	217	340	63.82	243	361	67.31	229	380	60.26
50代 以上	1	100.00	0	0	1	0.00	1	2	50.00	3	3	100.00	6	7	85.71	10	13	76.92
無記入	7	11	63.64	5	10	50.00	1	4	25.00	1	2	50.00	1	3	33.33	3	5	60.00
全体	1190	2585	46.03	692	1528	45.29	705	1138	61.95	581	968	60.02	528	868	60.83	426	781	54.55

風化する日常のなかの将来の健康不安 2018 年調査の自由回答
欄にみる福島県中通りの親子の生活と健康（成・牛島・松谷）

161 (161)

〔回答者が母親：居住地別内訳〕

市町村名	第 1 回調査 (2013 年) : 2585 人			第 2 回調査 (2014 年) : 1528 人			第 3 回調査 (2015 年) : 1138 人			第 4 回調査 (2016 年) : 968 人			第 5 回調査 (2017 年) : 868 人			第 6 回調査 (2018 年) : 781 人		
	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合	自由回答 記入者	調査 回答者	記入割合
福島市	426	873	48.80	241	504	47.82	216	358	60.34	185	308	60.06	176	279	63.08	140	252	55.56
桑折町	22	34	64.71	13	21	61.90	10	18	55.56	7	12	58.33	5	12	41.67	5	12	41.67
国見町	15	27	55.56	8	12	66.67	4	10	40.00	6	10	60.00	3	8	37.50	3	6	50.00
伊達市	67	173	38.73	46	109	42.20	40	82	48.78	35	71	49.30	33	64	51.56	24	58	41.38
郡山市	462	1059	43.63	255	601	42.43	284	453	62.69	230	377	61.01	216	334	64.67	175	294	59.52
二本松市	79	169	46.75	48	105	45.71	46	69	66.67	37	66	56.06	32	60	53.33	25	56	44.64
大玉村	15	41	36.59	10	26	38.46	11	20	55.00	14	20	70.00	6	15	40.00	7	16	43.75
本宮市	55	123	44.72	30	76	39.47	41	54	75.93	28	44	63.64	22	40	55.00	17	35	48.57
三春町	12	34	35.29	6	15	40.00	4	10	40.00	5	10	50.00	4	8	50.00	3	7	42.86
9 市町村外	37	52	71.15	35	59	59.32	49	64	76.56	34	50	68.00	31	48	64.58	27	45	60.00
計	660	2585	25.53	692	1528	45.29	705	1138	61.95	581	968	60.02	528	868	60.83	426	781	54.55

-
- ¹ 本稿は、科学研究費助成事業（15H01971、25460826）の成果である。2018 年調査の全体的な傾向は「福島原発事故後の親子の生活と健康に関する調査報告書（2018 年）」（2018 年 4 月）に掲載されている。「福島子ども健康プロジェクト」のホームページ（<https://fukushima-child-health.jimdo.com/>）の「研究成果」でダウンロードできる。なお、草稿の段階で、「福島子ども健康プロジェクト」事務局の伊藤晶子さん、森山亜由子さん、稲垣亜希子さんに多大なご協力をいただいた。記して感謝したい。
- ² 2012 年 10 月から 12 月の時点で 9 市町村の役場で標本抽出を行った。その時点で、2008 年度出生児の全員は 6191 名。
- ³ ちなみに、2018 年 7 月時点で、第 6 回調査の回答総数は 830 名であり、自由記述の記入数は 449 件である。
- ⁴ 成元哲・牛島佳代・松谷満, 2014, 「1,200 Fukushima Mothers Speak: アンケート調査の自由回答にみる福島県中通りの親子の生活と健康」, 『中京大学現代社会学部紀要』 8(1): 91-194 を参照。
- ⁵ 成元哲・牛島佳代・松谷満, 2014, 「700 Fukushima Mothers Speak: 2014 年アンケート調査の自由回答にみる福島県中通りの親子の生活と健康」, 『中京大学現代社会学部紀要』 8(2): 1-74 を参照。
- ⁶ 成元哲・牛島佳代・松谷満, 2017, 「原発災害からの生活復興（レジリエンス）とはなにか: 2015 年調査の自由回答欄にみる福島県中通りの親子の生活と健康」, 『中京大学現代社会学部紀要』 10(2): 199-268 を参照。
- ⁷ 成元哲・牛島佳代・松谷満, 2018, 「福島原発事故から「新しい日常」への道のり: 2016 年調査の自由回答欄にみる福島県中通りの親子の生活と健康」, 『中京大学現代社会学部紀要』 11(2): 99-170 を参照。
- ⁸ 成元哲・牛島佳代・松谷満, 2018, 「持続する不安、前向きな態度: 2017 年調査の自由回答欄にみる福島県中通りの親子の生活と健康」, 『中京大学現代社会学部紀要』 11(2): 171-254 を参照。